

IV-9

ほどほどの経済(2) —フィンランドにおける「脱成長」の取り組み

資料IV-8の続きです。脱成長経済(「ほどほどの経済」)についてですが、この資料では最初に技術の進歩により環境問題は解決できるとする考え方について見ていきます。その後は倫理的銀行(エシカルバンク)、リサイクル・センター、労働時間など、脱成長という考え方と結びつく取り組みをいくつか見ていきます。その後で「まとめ」に入りますが、何となくあいまいな形で終わると思います。それは、私自身の勉強不足が大きな原因ですが、加えて「脱成長」という考え方そのもののもつ性格のせいでもあるかもしれません。それでは、まずは経済成長と環境問題の克服は矛盾しないといった考え方について検討していきます。

なお、今回も「◇原注(文中で言及されている参考文献など)」については、引用文献に書かれている通りに記入しておきます。原則として無視してください。

【1】効率性や技術と「脱成長」

Kohtuusajattelun mukaan esimerkiksi energiatehokkuus ja puhtaammat teknologiat eivät riitä ekologisen kestävyuden saavuttamiseen. Ne voivat auttaa merkittävästi, mutta jos kokonaistuotanto kasvaa, suuri osa hyödyistä valuukin hukkaan. Myös vihreä tuotanto kuormittaa ympäristöä. Siksi aidon kestävyuden saavuttaminen edellyttää myös tuotannon ja kulutuksen vähentämistä.

■ 語句・文法

kohtuus-ajattelun「脱成長思想の、脱成長という考え方の」[属]<-ajattelu/energia-tehokkuus「エネルギー効率性は」(tehokkuus<tehokas<teho)/puhtaammat「よりきれいな」[複主]<puhtaampi 比<puhdas/saavuttamiseen「達成することへ」[入]<saavuttaminen 動名<saavuttaa/merkittävästi「顕著に、著しく」[副]<merkittävä 受現分<merkitä<merkki/kokonais-tuotanto「全体生産(量)、全生産(量)」(kokonais-<kokonainen)/hyödyistä「利益のうち、恩恵のうち」[複出]<hyöty/valua「漏れる、流れる」/hukkaan「無駄に、消えて」[入]<hukka ⇒ hukassa/vihreä tuotanto「グリーン生産、環境に配慮した生産」(経済成長を継続しながら持続可能で環境に大きな負担をかけないことをめざす「グリーン経済」という考え方にもとづく生産活動のことをさしているのだと思います。なお、vihreäについては「★補足」を参照してください。)/kuormittaa「負担をかける、負荷をかける」<kuorma/edellyttää「前提とする、要求する」/vähentämistä「減らすことを」[分]<vähentäminen 動名<vähentää<vähä

● フィンランド語理解のための訳例

脱成長の考え方の|よれば|たとえば|エネルギー効率性は|そして|よりきれいな|技術は|十分ではない|生態的な|持続可能性の|達成することへ。それらは|できる|助ける|著しく、|しかし|もし|全生産が|成長すれば、|[大きな|部分は|利益のうち]|流れてしまう|無駄に。また|グリーンな|生産

は|負荷をかける|環境に。そのため|本当の|持続可能性の|達成することは|前提とする|また|生産の|そして|消費の|減らすことを。

◎意識

脱成長という考え方によれば、たとえばエネルギー効率性やきれいな技術は生態的な持続可能性を達成するのには十分ではない。それらはおおいに貢献しうるだろうが、もし生産量全体が増加していけば、エネルギー効率性やきれいな技術がもたらす恩恵の大部分は無駄になってしまうだろう。またグリーンな生産と呼ばれるものも環境に負荷をかけることに変わりはない。そのため、本当の意味での持続可能性を達成するためには、生産と消費を削減することも求められる。

★補足

Kielitoimiston sanakirja (<https://www.kielitoimistonsanakirja.fi/#/>) で”vihreä”を調べると 4 つ目の語釈として次のように書かれています。

4. ympäristönsuojelun näkökohdat huomioon ottavasta ideologiasta t. toiminnasta.

「4. 環境保護の視点を考慮に入れるようなイデオロギー、あるいは活動について」

日本語でも「グリーン」という語が、このような意味で使われるようになっていきます。この資料の中には、この vihreä を含む次のような用語が登場します。

vihreä tuotanto「環境保護を考慮するような生産(グリーン生産)」

vihreä talous「環境保護を考慮するような経済(グリーン経済)」

vihreä kuluttaja-valinta「環境保護を考慮するような消費者としての選択(グリーンな消費者選択)」

vihreä kasvu「環境保護を考慮するような成長(グリーン成長)」

また、viherpesu という用語も知っておいてよいと思います。英語の greenwash(ing)に相当しますが、日本語では(例によって)「グリーンウォッシュ(グリーンウォッシング)」という苦勞に苦勞を重ねて作り出した語が使われるようです。一言でいえば「うわべだけ環境に配慮しているように装うこと」といった意味だと思いますが、SDGs などという謳い文句を使って宣伝しまくる企業やテレビ番組などは、基本的にこの「緑のごまかし」だろうと私自身は思ったりしています。

viher-は vihreä の古い形のように、合成語でよく使われます。たとえば、viher-alue「緑地」などという語がよく使われます。また、viher-pesu「緑のごまかし(グリーンウォッシング)」には viher-pestä「緑のごまかしをする」という動詞もあるようです。

【2】「グリーン経済」は本当に「グリーン」なのか

Vihreän talouden ongelmana on pidetty käsitteen epämääräisyyttä. Moni kohtuutalouden kannattaja kritisoi vihreää taloutta kyseenalaistamalla sen tavoitteet: planeetan pelastamisen sijaan sen päämääränä on pikemminkin pelastaa talouskasvu ja luoda uusia liiketoimintamahdollisuuksia ekologisia konflikteja hyödyntämällä ja esimerkiksi luontoa tuotteistamalla²¹. Riskinä on markkinalogiikan ulottaminen yhä laajemmalle alueelle, esimerkiksi juomaveteen ja ilmaan. Vihreää taloutta on myös kritisoitu liiallisesta teknologiaoptimismista.

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

21 Kenis & Lievens (2015)

Kenis, A. & M. Lievens (2015): Greening the Economy or Economizing the Green Project? When Environmental Concerns Are Turned into a Means to Save the Market. *Review of Radical Political Economics*, 1-18

■ 語句・文法

ongelmana「問題だと、問題として」[様]< ongelma/on pidetty「みなされている」受完 < pitää/ epä-määräisyyttä「不明確さを、あいまいさを」[分]< -määräisyys < -määräinen/kannattaja「支持者」< kannattaa/kritisoida「批判する」/kyseen-alaistamalla「疑うことにより、疑問を投げかけることにより」MA 不[接]< -alaistaa < -alainen/pelastamisen「救うことの」[属]< pelastaminen 動名 < pelastaa/pää-määränä「目的として、目標として」[様]< -määrä/pikemmin(kin)「むしろ」/liike-toiminta-mahdollisuuksia「事業活動の可能性を、ビジネスチャンスを」[複分]< -mahdollisuus/konflikteja「紛争を、対立を」[複分]< konflikti/hyödyntämällä「利用することにより」MA 不[接]< hyödyntää < hyöty/tuotteistamalla「商品化することにより」MA 不[接]< tuotteistaa < tuote < tuottaa/riskinä「危険性として、リスクとして」[様]< riski/markkina-logiikan「市場原理の、市場論理の」[属]< -logiikka/ulottaminen「伸ばすこと、広げること、及ぼすこと」動名 < ulottaa/laajemmalle「より広い」[向]< laajempi 比 < laaja/juoma-veteen「飲料水へ」[入]< -vesi/on kritisoitu「批判されている」受完 < kritisoida/liiallisesta「過度の」[出]< liiallinen < liika/teknologia-optimismista「技術(に関する)楽観主義について」[出]< -optimismi

● フィンランド語理解のための訳例

グリーンな|経済の|問題だと|みなされている|概念の|不明確さを。多くの|脱成長経済の|支持者は|批判する|グリーンな|経済を|疑うことにより|その|目標を:|[惑星の|救うことの|代わりに]|その|目的として|ある|むしろ|[救うことが|経済成長を]|そして|[作ることが|新しい|事業活動の可能性を]|[生態的な|対立を|利用することにより]|そして|たとえば|[自然を|商品化することにより]。危険性として|ある|市場の論理の|広げることが|さらに|より広い|領域へ、|たとえば|飲料水へ|そして|空気へ。グリーンな|経済を|また|批判されている|過度な|技術楽観主義について。

◎意訳

グリーン経済の問題だとみなされているのは、その概念のあいまいさである。脱成長経済を支持する多くの人々は、グリーン経済が目標とすることに疑問を投げかけ批判している：つまり、グリーン経済の目的となっているのは地球という惑星を救うことではなく、生態的対立を利用し、たとえば自然を商品化することで経済成長を確保し、新たな事業活動の機会を作り出すことなのである。それにとともに、市場の論理がさらに広範囲に、たとえば飲料水や空気にまで及ぶ危険性がある。グリーン経済についてはまた、技術革新に対してあまりにも楽観的であることも批判の対象となっている。

【3】「グリーン経済」の正体とは

Vihreä talous pohjautuu ekologisen modernisaation teoriaan, jonka mukaan ympäristön kestävyys voidaan saavuttaa talouskasvun ja teknologisten innovaatioiden keinoin. Lähtökohtana on, että ympäristökysymykset on mahdollista ratkaista muuttamatta perustavanlaatuisesti nykykehityksen kurssia. Talouskasvun ei nähdä olevan olennaisesti yhteydessä ympäristön tilan heikkenemiseen.²²

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

22 Kähkönen & Lounela (2010)

Kähkönen, M. & A. Lounela (2010): Ristiriidattomuuden illuusio: Vihertyvää kehitystä talouden ehdoilla? Sivut 94-95. Teoksessa ”Kehitysapukeisarin vaatekaapilla”, Koponen J. & T. Kontinen (toim.). Helsinki, Into Kustannus.

■語句・文法

pohjautua「もとづく」< pohja / modernisaation「近代化の、現代化の」[属]< modernisaatio (ekologisen modernisaation teoria「エコロジカル・モダナイゼーション論、エコロジー的近代化論、生態的近代化論」とは、政治や経済、あるいは技術革新のもつ問題を根本から検討することはなく、環境に配慮しながらも技術革新により一貫して経済成長をめざそうとする考え方のことをさすようです。) / jonka mukaan「それによれば」(jonka [属]< joka) / teknologisten innovaatioiden「技術革新の」[複属]< teknologinen innovaatio / keinoin「手段により」[複具]< keino / lähtö-kohtana「出発点として、前提として」[様]< -kohta / muuttamatta「変えずに」MA 不[欠]< muuttaa / perustavan-laatuisesti「根本的に」[副]< -laatuinen < laatu / nyky-kehityksen「現在の発展の」[属]< -kehitys < kehittää / kurssia「コースを、方向を、経過を」[分]< kurssi / talous-kasvun ei nähdä olevan ...「経済成長は…あるとはみなされない」[分構](ei nähdä 受現否 < nähdä, olevan [属]< oleva 能現分 < olla) / olennaisesti「本質的に」[副]< olennainen / yhteydessä「結ぶつきに、関係に」[内]< yhteys < yksi / tilan「状況の」[属]< tila / heikkenemiseen「弱くなることへ、弱体化することへ」[入]< heikkeneminen 動名 < heiketä < heikko

●フィンランド語理解のための訳例

グリーンは|経済は|もとづく|生態的な|近代化の|理論へ、|その|よれば|環境の|持続可能性
を|できる|達成する|経済成長の|そして|技術的な|革新の|手段により。出発点として|ある|
[ことが|環境問題を|可能である|解決する|変えずに|根本的に|現在の発展の|コースを。経
済成長は|みなされない|あるのだと|本質的に|関係に|[環境の|状況の|弱まることへ]。

◎意訳

グリーン経済はく技術革新などによって環境に配慮しながらも、一貫して経済成長をめざそうとす
る)エコロジー的近代化論にもとづくものであり、それによれば環境の持続可能性は経済成長と技
術革新を通じて達成できるものである。その前提となるのは、現在の発展の道筋を根本的に変化さ
せることなく環境問題は解決できるとする考え方である。つまり、経済成長は環境の置かれた状況
の悪化と本質的に結びついているとはみなされないのである。

【4】「反跳作用(リバウンド作用)」とは何か

Pelkkä materiaali- ja energiatehokkuus eivät riitä ympäristöongelmien ratkaisemiseksi, jos tehokkuudesta kertyvät säästöt kanavoidaan takaisin kuluttavaan toimintaan. Tehokkuus itsessään ajaa tuotannon ja kulutuksen kasvua. Tämä ns. rebound-efekti (tai Jevonsin paradoksi) on havaittu tutkimuksissa kerta toisensa jälkeen. On siis tärkeää, että keskitytään kulutuksen ja tuotannon kokonaistasoon eikä tehokkuuteen. Kiertotalous ja energiatehokkuus ovat hyviä keinoja vähentää resurssien kulutusta, mutta ne eivät itsessään riitä.

■語句・文法

materiaali- ja energia-tehokkuus「材料効率(性)とエネルギー効率(性)は」/ratkaisemiksi「解決するために」[変]<ratkaiseminen 動名 <ratkaista/kertyvät「たまるような、集まるような、蓄積されるような」[複主対]<kertyvä 能現分 <kertyä/säästöt「節約、貯蓄」[複主対]<säästö <säästää/kanavoidaan「導かれる、向かわせられる」受現 <kanavoida <kanava/kuluttavaan「消費するよう」[入]<kuluttava 能現分 <kuluttaa/itsessään「それ自体は」/ajaa「追求する、追う」/ns. = niin sanottu「いわゆる」/rebound-efekti「反跳作用、リバウンド現象」(もともとは医学の世界で使われる用語だったようで、薬の服用後などに再発した場合に、その症状が以前よりも重くなる作用のことをさすようです。ここでは、技術上の効率性が達成されることにより、生産や消費がかえって増大してしまう現象をさしているのだと思います。)/Jevonsin paradoksi「ジェボンスの逆説(パラドクス)」とはイギリスの経済学者 William Stanley Jevons (ウィリアム・スタンレー・ジェヴォンズ、1835-1882)によって唱えられた考え方で、たとえば材料やエネルギーの効率性が技術革新により向上したとしても、それらの消費量がかえって増加してしまうという逆説のことです。/on havaittu「観察されている」受完 <havaita/kerta toisensa jälkeen「繰り返し、次から次へと」/keskitytään「集中される」受現 <keskittyä/kokonais-tasoon「全体レベルへ」[入]<-taso/tehokkuuteen「効率(性)へ」[入]<tehokkuus/kierto-talous「循環経済は」

●フィンランド語理解のための訳例

単なる|材料<効率性>|そして|エネルギー効率性は|十分ではない|環境問題の|解決するため
に、|もし|効率性から|蓄積されるような|節約を|導かれる|もとへ|消費するような|行動へ。効率性
は|それ自身|追及する|生産の|そして|消費の|成長を。この|いわゆる|反跳作用を|(あるいは|ジ
ェボンスの逆説を)|観察されている|研究において|次から次へと。つまり|重要である、|<次の>
[ことが|集中される|消費の|そして|生産の|全体レベルへ|<次> [ではなく|効率性へ]。循環経済
は|そして|エネルギー効率性は|である|よい|手段|減らすための|資源の|消費を、|しかし|それら
は|それ自身では|十分ではない。

◎意訳

単に材料やエネルギーの効率性を高めたとしても、その効率性向上により得られた節約部分をあ
らためて消費行動へと導いてしまうのであれば、環境問題を解決するには十分ではない。効率性の
向上それ自体は生産と消費の拡大を追求するものになってしまう。この、いわゆる反跳作用(リバウ
ンド現象)の存在は研究において繰り返し観察されている。つまりは、効率性ではなく消費と生産の
全体的な水準に目を向けることが重要である。循環経済やエネルギー効率性は資源の消費を減少
させる有効な手段ではあるが、それだけでは十分ではないのである。

★補足

グリーン経済や循環経済などが環境に十分に配慮しているとするという考え方には疑問があるよ
うです。なぜなら、それらが生産や消費、つまり経済成長という根本的な問題にはあまり触れようと
しないからだと思います。

【5】もっとも「グリーンな」消費とは消費せずにいること

Vihreät kuluttajavalinnat voivat olla vaihtoehtojaan parempia, mutta ne ovat myös osa laajempaa fossiilisen talouden järjestelmää ja siten välillisesti edistävät vakavia ympäristöongelmia. Vihreintä kulutusta on olla kuluttamatta. Kulutuksen radikaalia alentamista kuitenkin estää usea talouden instituutio ja kulttuurinen normi, joiden **muuttamisessa muuttamisesta** kohtuusliikkeessä onkin kyse.

■語句・文法

kuluttaja-valinnat「消費者<としての>選択」[複主]<-valinta< valita/vaihto-ehtojaan「(自らにと
っての)他の選択肢よりも、(自らにとっての)他の代替策よりも」[複分]+ 複₃所接(この分格は次
に来る比較級 parempia と結びついて比較の対象を表します) / laajempaa fossiilisen talouden
järjestelmää「より広範な化石<燃料に依存する>経済体制の」(laajempaa [分]< laajempi 比 <
laaja, fossiilisen [属]< fossiilinen, järjestelmää [分]< järjestelmä. この分格は直前にある osa「部
分」と結びついて「~の」という日本語に相当します。) / siten「そういうふうにして」< se/välillisesti
「間接的に」[副]< välillinen < väli/edistää「促進する」/ vakavia「深刻な」[複分]< vakava/

vihreintä「もっとも緑色の、もっともグリーンな」[分]< vihrein 最 < vihreä/kuluttamatta「消費せずに」MA 不[欠]< kuluttaa/alentamista「下げることを」[分]< alentaminen 動名 < alentaa < aleta < ala-/instituutio「制度、組織」/normi「規範」/joiden「それらの」[複属]< joka/muuttamisessa とありますが、おそらく muuttamisesta が正しいと思いますので、赤字で修正しておきます (muuttamisesta「変えることについて」[出]< muuttaminen 動名 < muuttaa)/kohtuusliikkeessä「脱成長運動において」[内]< -liike

●フィンランド語理解のための訳例

グリーンな|消費者選択は|ありうる|(自らにとっての)他の代替策よりも|よりよい、|しかし|それらは|である|また|一部|[より広い|化石(燃料)の|経済の|体制の]|そして|そうして|間接的に|促進する|深刻な|環境問題を。もっともグリーンな|消費|である|[いることが|消費せずに]。消費の|根本的な|下げることを|しかしながら|妨げている|多くの|経済の|制度が|そして|文化的な|規範が、|それらの|変化させることについて|脱成長運動において|問題である。

◎意訳

グリーンなく環境保護をめざすような消費者による選択は他の代替策よりもよいものではありうるが、それらはまたより広範な化石燃料に依存する経済体制の一部であり、そうであることにより間接的に深刻な環境問題を引き起こすことになる。もっともグリーンな消費とは消費せずにいることである。しかし、消費を劇的に削減することは多くの経済制度や文化的規範によって阻まれており、それらを変化させることこそが脱成長運動における問題なのである。

★補足

消費者の環境に配慮した(つまり、グリーンな)選択も、消費量そのものを減らすのでなければ、やはり根本的な解決をもたらすものではないのかもしれませんが。消費量そのものを減らすことが難しいのは、それがやはり我々の文化の中心的な一部になっているからでしょう。その意味では、価値観や行動様式、そして生活様式のすべてから成り立つ私たちの「文化」の変革が求められます。そして、そのような変革は、「環境問題の解決と経済成長は両立しうる」とする「デカップリング」の考え方に挑むことから始まるのかもしれませんが。

【6】「デカップリング」という都合のよい考え方

Irtikytkentää vaikeuttaa niin sanottu rebound-ilmiö, joka saattaa kumota energiatehokkuuden hyödyt osittain tai jopa kokonaan. Teknologiset innovaatiot johtavat tehokkaampaan tuotantoon, minkä ansiosta tavaroista tulee halvempia. Tämä puolestaan johtaa siihen, että ihmiset kuluttavat enemmän. Klassinen esimerkki suorasta reboundista on se, että auton vaihtaminen uudempaan ja vähemmän polttoainetta kuluttavaan autoon lisää ajamista.

■語句・文法

irti-kytkentää「切断を、分離を、デカップリングを」[分]< -kytkentä < kytkeä(「デカップリング」とは、

おもに技術革新により経済成長と環境問題とを切り離すことを意味しますが、言い換えれば、経済成長は継続しながら環境保護は可能だとする考え方です。) / vaikeuttaa 「困難にする、難しくさせる」 < vaikea / rebound-ilmiö 「反跳現象、リバウンド現象」 / kumota 「ひっくり返す、取り消す、無効にする」 / osittain 「部分的に」 < osa / kokonaan 「完全に」 / tehokkaampaan 「より効率的な」 [入] < tehokkaampi 比 < tehokas < teho / minkä ansiosta 「そのおかげで」 (minkä [属] < [関代] mikä) / tavaroista tulee halvempia 「品物はより安くなる」 (tavaroista [複出] < tavara。出格と結びつく tulla は「～になる」という日本語に相当する場合があります。halvempia [複分] < halvempi 比 < halpa) / puolestaan 「一方で」 [出]+ 単 3 所接 < puoli / johtaa siihen, että ~ 「～ということへ導く、～ということにつながる」 / enemmän 「より多く」 比 < paljon / vaihtaminen 「替えること」 動名 < vaihtaa / uudempaan 「より新しい」 [入] < uudempi 比 < uusi / vähemmän 「より少なく」 比 < vähän / poltto-ainetta 「燃料を」 [分] < -aine / kuluttavaan 「消費するような」 [入] < kuluttava 能現分 < kuluttaa / lisää 「増やす」 < lisätä (この語が että で始まる節の述語動詞です) / ajamista 「運転することを、自動車を走らせることを」 [分] < ajaminen 動名 < ajaa

●フィンランド語理解のための訳例

デカップリングを|難しくさせる|いわゆる|反跳現象が、|それは|ありうる|無効にする|エネルギー効率性の<生み出す>|利益を|部分的に|あるいは|[さえ|完全に]。技術的な|革新は|導く|より効率的な|生産へ、|その|おかげで|品物は|なる|より安く。これは|一方で|導く|<次の> [ことへ、|人々は|消費する|より多く]。古典的な|例は|直接的な|反跳について|である|<次の> [ことが|自動車の|替えることは|より新しい|そして|より少なく|燃料を|消費するような|自動車へ|増やす|自動車で走ることを。

◎意訳

<経済成長と環境問題とは切り離せるとする>デカップリングは、いわゆる反跳現象により困難なものとなり、エネルギー効率性の向上により得られる利益を部分的に、あるいは完全にさえ無効にしてしまう可能性がある。<なぜなら>技術革新はより効率的な生産へと結びつき、そのおかげで商品はより安価なものとなるからであり、一方、このことは人々の消費を拡大させるからである。直接的な反跳現象に関する古典的な例として挙げられるのは、より新しく燃料をより燃費のよい自動車に買い替えることにより、自動車を利用する時間が増えるというものである。

【7】節約できれば、もっと消費できる？

Epäsuora rebound-vaikutus puolestaan tapahtuu, kun bensalaskussa säästynyt raha lisää muuta kulutusta. Säästyneillä rahoilla saatamme ostaa esimerkiksi uuden taulutelevision tai lentää useammin lomalle. Rebound-ilmiö ei toki tarkoita, että energiatehokkuuteen panostaminen olisi turhaa. Tarvitsemme kyllä teknologisia innovaatioita, kuten uusiutuvan energian kehittämistä. Ekotehokkuuden parantaminen ei kuitenkaan yksin riitä.

■ 語句・文法

epä-suora「間接的な」／bensa-laskussa「ガソリン代金において」[内]<-lasku／säätynyt「節約されたような」能過分 < säästyä < säästää／sästyneillä rahoilla「節約された金で」[複接]< säästynyt raha／taulu-television「薄型テレビを、液晶テレビを」[属対]<-televisio／useammin「よりしばしば、より頻繁に」比 < usein／toki「それでも」／panostaminen「(力を、資金を)つぎ込むことは」動名 < panostaa < panos < panna／turhaa「無駄な」[分]< turha／uusiutuvan「再生するよう」[属]< uusiutuva 能現分 < uusiutua < uusi／kehittämistä「発展させること、開発すること」／eko-tehokkuuden「環境効率(性)の」[属]<-tehokuus(何らかの作業が環境に与える負荷が小さければ小さいほど、「環境効率性」は高いということになります)／parantaminen「改善すること」動名 < parantaa < parata ⇒ parempi, paras

● フィンランド語理解のための訳例

間接的な|反跳作用は|一方で|起こる、|<次の>[ときに|ガソリン代金において|節約された|金が増やす|他の|消費を]。節約された|金で|我々はするかもしれない|買う|たとえば|新しい|薄型テレビを|あるいは|飛ぶ|より頻繁に|休暇へ。反跳現象は|それでも|意味しない、|<次の>[ことを|エネルギー効率性へ|力をつぎ込むことは|だろう|無駄な]。我々は必要とする|実際に|技術的な|革新を、|<次の>[ような|再生するよう|エネルギーの|開発することを]。環境効率性の|改善することは|しかしながら|それだけでは|十分ではない。

◎ 意訳

一方、ガソリン代が節約できた分のお金が他の消費を拡大する場合に間接的な反跳現象が起こることになる。節約できたお金で私たちは、たとえば新しい薄型テレビを購入したり、あるいは休暇へ出かけるためにより頻繁に飛行機を利用するかもしれない。それでも、反跳現象があるからといって、エネルギー効率性を高めるために力を注ぐのが無駄だということの意味するわけではない。我々が再生可能エネルギーの開発のような技術革新を必要としているのも事実なのである。しかし、環境効率性を改善することだけでは不十分なのである。

【8】「環境にやさしい」は本当に「やさしい」?

Rekyylivaikutus tapahtuu eri tavoin. Mitä tehokkaammin jotakin resurssia käytetään, sitä kannattavammaksi sen käyttö tulee. (Polttoainepihillä autolla voidaan ajaa pitempiä matkoja.) Mitä enemmän jotakin resurssia voidaan säästää, sitä enemmän on varaa kuluttaa muita hyödykkeitä. (Säästetyistä bensiinikuluista voi saada rahaa ylimääräiseen lentomatkaan.) Tehokkaampien tuotteiden tuotanto vaatii usein enemmän resursseja. ("Ympäristöauton" tuottaminen voi olla vakioauton tuottamista haitallisempaa ympäristölle.)

■ 語句・文法

rekyyli-vaikutus「反跳作用」(すでに出てきている rebound-vaikutusと同じ意味だと思ってよいと思

います) / eri tavoin「さまざまな方法で」(tavoin[複具]<tapa) / mitä 比較級, sitä 比較級「～であればあるほど、それだけ…」 / tehokkaammin「より効率的に」[副]比 < tehokas < teho / kannattavammaksi「より利益を生み出すように」[変]< kannattavampi 比 < kannattava 能現分 < kannattaa / tulee「なる」(+[変]) / poltto-aine-pihillä「燃料消費の少ない」[接]< -pihi (pihi「ケチな、消費の少ないような」) / pitempiä「より長い」[複分]< pitempi 比 < pitkä / on varaa「余裕がある」 / hyödykkeitä「有用品を、商品を」[複分]< hyödyke < hyöty / säästetyistä「節約されたような」[複出]< säästetty 受過分 < säästää / benssiini-kuluista「ガソリン費用から」[複出]< -kulu (benssiini = bensa) / yli-määräiseen「余分な」[入]< -määräinen / tehokkaampien「より効率的な」[複属]< tehokkaampi 比 < tehokas / ympäristön-auto「環境にやさしい自動車、環境負荷を低減した自動車」 / tuottaminen「製造することは」動名 < tuottaa / vakio-auto「通常の自家用車、市販車」 / tuottamista「製造することより」[分]< tuottaminen 動名 < tuottaa (この分格は次に来る比較級 haitallisempaa と結びつき比較対象を表します) / haitallisempaa「より有害な」[分]< haitallisempi 比 < haitallinen < haitta

●フィンランド語理解のための訳例

反跳作用は|起こる|さまざまな方法で。[より効率的に、であればあるほど|何らかの|資源を|利用される]、|[それだけ、利益を生み出すように|その|使用は|なる]。(燃料消費の少ない|自動車|できる|走る|より長い|距離を。)[より多くくすればする]ほど|何らかの|資源を|できる|節約する]、|[それだけ多く|余裕がある|消費する|他の|有用品を。(節約されたような|ガソリン費用から|できる|得る|金を|余分な|飛行機旅行へ。)より効率的な|製品の|生産は|要求する|しばしば|より多く|資源を。(「環境にやさしい自動車」の|製造することは|ありうる|である|通常の自動車の|製造することより|より有害な|環境へ。)

◎意訳

反跳作用はさまざまな形で起こるものである。何らかの資源を効率的に利用すればするほど、その利用はより多くの利益を生み出すものとなる。(〈たとえば〉燃費のよい自動車を使えば、より長い距離を走ることができる。)何らかの資源を節約できればできるほど、それだけ他の商品を消費する余裕が生まれる。(〈たとえば〉ガソリン代を節約することにより、飛行機で余分な旅行をするお金が手に入る。)そして、より効率的な製品を製造することは、しばしばより多くの資源を必要とする。(〈たとえば〉「環境にやさしい自動車」を製造することは、通常の自動車を製造するよりも環境にとって有害である可能性がある。)

★補足

以上で見てきたように、技術革新がもたらす反跳作用(リバウンド作用)により、「デカップリング」は単なる幻想でしかないということになりかねないかもしれません。そして、技術革新もまた、何らかの代償を求めるものだということを見ていきます。

【9】風力発電所も環境を「破壊」する

Samalla pitäisi kuitenkin muistaa, että myös uusilla keksinnöillä on ympäristössä hintansa. Johonkin tuulivoimalat rakennetaan, jostakin mineraalit kaivetaan ja jonkin metsän läpi voimalinjatkin hakataan.

■ 語句・文法

この文章は資料IV-1の【2】に含まれていたものです／pitäisi「すべきだろう、しなければならないだろう」[条]単₃現 < pitää／keksinnöillä「発明には」[複接]< keksintö < keksiä／hintansa「(自らの)値段が、(自らの)代償が」[主]+ 複₃ 所接 < hinta／johonkin「どこかへ」／tuuli-voimalat「風力発電所を」[複主対]< -voimala < -voima／rakennetaan「建設される」受現 < rakentaa／jostakin「どこかから」[出]< jokin／mineraali「鉱物」／kaivetaan「採取される、採掘される」受現 < kaivaa／jonkin metsän läpi「どこかの森を通過して」(jonkin[属]< jokin)／voima-linja「送電線」／hakataan「切り倒す、切り開く」受現 < hakata

● フィンランド語理解のための訳例

同時に|しなければならないだろう|しかしながら|覚えておく、|〈次の〉[ことを|また|新しい|発明には|ある|環境の中に|その値段が。どこかへ|風力発電所を|建設される、|どこかから|鉱物を|採取される|そして|どこかの|森の|通って|送電線も|切り開かれる。

◎ 意訳

しかし同時に、新たな発明はまた自然に代償を支払わせるものであることも頭に入れておくべきだろう。風力発電所はどこかに建設され、必要な鉱物はどこかから採掘されるのであり、そして送電線はどこかの森を通過して切り開かれるのであるから。

【10】森も風力発電所でいっぱい

Mitä enemmän käytämme energiaa, sitä tiheämmin Suomen salomaiden taivaanrannat tuulimyllyistä täyttyvät.

■ 語句・文法

tiheämmin「より密に、より密集して」[副]比 < tiheä／salomaiden「深い森の、手つかずの自然の」[複属]< -maa／taivaan-rannat「水平線は」[複主]< -ranta／tuuli-myllyistä「風車から、風車で」(次の täyttyä という動詞が出格を要求します)／täyttyä「満ちる、いっぱいになる」(+[出])< täyttää < täysi

● フィンランド語理解のための訳例

多ければ多いほど|我々が使う|エネルギーを、|それだけ密に|フィンランドの|深い森の|水平線は|風力発電所で|満ちる。

◎意訳

我々が多くのエネルギーを使えば使うほど、フィンランドの深い森の水平線は風力発電所で埋め尽くされることになる。

【11】電力需要を抑えることが重要なはず

On tärkeää, että nämä uhraukset todella korvaavat polttamalla synnytettyä energiaa, eivätkä tule sen päälle. Sähköntarve tulee Suomessa kasvamaan joka tapauksessa, mutta teollisuuden energiapihiys ja kuluttajien ratkaisut määrittävät, kuinka paljon.

■語句・文法

uhraukset「犠牲は」[複主]<uhraus<uhrata ⇒ uhri(ここでの uhraukset とは「風力発電所を作ることが森の伐採などの犠牲をとまなう」といったことを意味しています。)/korvata「補償する、取って代わる」/polttamalla「燃やすことにより」MA 不[接]<polittaa/synnytettyä「生み出されたような」[分]<synnytetty 受過分 <synnyttää <syntyä/päälle「上へ、加えて」[向]<pää ⇒ päällä. päältä/sähkön-tarve「電力需要は」/tulee kasvamaan「成長するだろう、増えるだろう」(tulla と MA 不定詞入格が結びつくと未来を表します)/joka tapauksessa「いずれにしても」/teollisuuden「産業の」[属]<teollisuus <teollinen/energia-pihiys「エネルギー消費が少ないこと、エネルギー消費を抑えること」/määrittää「決める」

●フィンランド語理解のための訳例

重要である、|<次の>[ことが|これらの|犠牲が|本当に|取って代わる|燃やすことにより|生み出される|エネルギーを、|そして~ではない|来る|その|上へ。電力需要は|だろう|フィンランドでは|成長する|どの|場合にも、|しかし|産業の|エネルギー消費を抑えることが|そして|消費者の|決断が|決める、|どのくらい|たくさん<電力需要が増えるのか>。

◎意訳

これらの犠牲が燃料によって生み出されるエネルギーに追加されるのではなく、本当に取って代わることが重要である。電力需要はフィンランドではいずれにしても増えることになるだろうが、しかし産業がエネルギー消費を抑えることや消費者がどのような選択をするのかということが、電力需要がどのくらい増えるのかを決定することになる。

【12】同じことは衣服にだって当てはまる

Sama pätee esimerkiksi vaatteisiin: ekologisesti valmistettu vaate on toki ympäristön kannalta hyvä valinta, mutta vielä parempi valinta on jättää se ostamatta ja käyttää vanhat vaatteet loppuun.

■語句・文法

sama「同じこと」(この【12】は前の【9】~【11】に続く部分です。)/päteä「当てはまる」/

vaatteisiin「衣類へ」[複入]< vaate/ ekologisesti「生態的に、環境に配慮して」[副]< ekologinen / valmistettu「製造されたような、作られたような」受過分 < valmistaa < valmis/ kannalta「観点から」[奪]< kanta/ valinta「選択」< valita/ jättää ostamatta「買わずにおく、買わずにすませる」(ostamatta MA 不[欠]< ostaa) / se「それを」(この語は jättää の目的語ですが、A 不定詞の目的語となる対格目的語は形の上では主格になります) / loppuun「最後まで」[入]< loppu

●フィンランド語理解のための訳例

同じことは|当てはまる|たとえば|衣類へ:|環境に配慮して|製造されたような|衣類は|である|たしかに|環境の|観点から|よい|選択、|しかし|さらに|よりよい|選択は|である|残す|それを|買わずに|そして|使う|古い|衣類を|最後まで。

◎意訳

同じことは、たとえば衣類にも当てはまるだろう:環境に配慮して製造された衣類は、環境の観点からすればたしかによりよい選択ではあるが、さらによりよいのは、それを買わずに済ませ、古い衣類を最後まで使い切ることである。

【13】動物性食品から植物性食品へ

Ruokahuollossa kulutuksen vähentäminen tarkoittaa kasvispainotteisuuden lisäämistä ja hävikin vähentämistä eikä sitä, että uudet kasvispohjaiset tuotteet pinotaan jääkaappiin entisten eläinperäisten tuotteiden rinnalle.

■語句・文法

ruoka-huollossa「食事の手配において、食料調達において」[内]< -huolto < huoltaa < huoli / kasvis-painotteisuuden「植物性食品に重点を置くことの、野菜を中心にするの」[属]< -painotteisuus < -painotteinen < painottaa < paino/ lisäämistä「増やすことを」[分]< lisääminen 動名 < lisätä/ hävikin「廃棄物の」[属]< hävikki < hävitä/ eikä「そして~ではない」(= ja ei) / sitä, että ~「~だということ」/ kasvis-pohjaiset「植物由来の、野菜ベースの」[複主対]< -pohjainen < pohja/ pinotaan「積み重ねられる、山積みされる」受現 < pinota < pino/ eläin-peräisten「動物由来の、動物性の」[複属]< -peräinen < perä/ rinnalle「隣へ、並んで、加えて」[向]< rinta

●フィンランド語理解のための訳例

食事の手配において|消費の|減らすことは|意味する|植物性食品に重点を置くことの|増やすことを|そして|廃棄物の|減らすことを|そして~ではない|<次の>[こと|新しい|植物由来の|製品を|積み重ねられる|冷蔵庫へ|以前の|動物性の|製品の|並んで]。

◎意訳

食事の手配において消費を減らすということは、植物性食品の使用を増やすこと、そして廃棄物を減らすことを意味するのであり、これまでの動物性食品に加えて新しい植物性食品を冷蔵庫に詰め

込むことを意味するのではない。

【14】「非物質的」成長という「まやかし」

Myös ajatus aineettomasta kasvusta on harhaanjohtava. Elämme jo nyt tilanteessa, jossa kasvusta suuri osa tulee finanssisektorilta ja palveluista, mutta jatkuvasti lisääntyvä luonnonvarojen käyttö osoittaa, ettei tämäkään kasvu ole “aineetonta”.

<https://kohtuusliike.fi/tietoa-kohtuusliikkeesta/usein-kysyttya/>

■ 語句・文法

aineettomasta「非物質的な」[出] < aineeton (⇔ aineellinen) < aine / harhaan-johtava「誤解を招くような、惑わすような」(harhaan[入] < harha, johtava 能現分 < johtaa) / finanssi-sektorilta「金融部門から」[奪] < -sektori / jatkuvasti「継続的に」[副] < jatkuva 能現分 < jatkua / lisääntyvä「増えるような」能現分 < lisääntyä < lisätä / luonnon-varojen「天然資源の」[複属] < -vara / ettei = että ei

● フィンランド語理解のための訳例

また|考え方は|非物質的な|成長について|である|誤解を招くような。我々は生きている|すでに|今|状況の中で、|そこで|成長のうち|大きな|部分は|来る|金融部門から|そして|サービスから、|しかし|継続的に|増えるような|天然資源の|利用は|示す、|〈次の〉[ではないことを|この|成長も|である|「非物質的な」]。

◎ 意訳

また非物質的な成長という考え方も誤解を生み出すものである。現在の我々はすでに、成長の大部分が金融部門やサービス〈部門〉から生み出される状況を生きているが、それでも天然資源の利用が絶え間なく増加しているということは、このような成長であっても「非物質的」なものではないということを示している。

【15】資源は本当に節約されているのか？

Kohtuutalous ja teknologisia innovaatioita korostavat ajattelutavat voivat tukea toisiaan tai olla ristiriidassa keskenään. Ympäristön näkökulmasta resursseja säästävät teknologiat ovat hyvä asia. Olennaisempaa on kuitenkin se, mitä säästyneillä resursseilla tehdään. Käytetäänkö ne lisäkasvun aikaansaamiseen, jolloin säästöä ei lopulta synny? Vai ovatko resurssisäästöt todellisia?

■ 語句・文法

korostavat「強調するような」[複主] < korostava 能現分 < korostaa / ajattelu-tavat「思考法は」[複主] < -tapa / toisiaan「おたがいを」[複分]+ 複₃ 所接 < toinen / risti-riidassa「矛盾の中に、対立の中に」[内] < -riita / keskenään「おたがいに」[様]+ 複₃ 所接 < keski- / säästävät「節約

するような」[複主]< säästävä 能現分 < säästää/olennaisempaa「より本質的な、より重要な」
 [分]< olennaisempi 比 < olennainen < olla/se, mitä ~「何を~するのかということ」/säästyneillä
 「節約されたような」[複接]< säästynyt 能過分 < säästyä < säästää/käytetään「使用される」受
 現 < käyttää/lisä-kasvun「追加成長の、さらなる成長の」[属]< -kasvu < kasvaa/aikaan-
 saamiseen「引き起こすことへ、生み出すことへ」[入]< -saaminen 動名 < -saada (= saada aikaan)
 /jolloin「そのときに」< joka/säätää「節約は、節約分は」[分]< säästö < säästää/lopulta「最後
 に、最終的に」[奪]< loppu/resurssi-säästöt「資源の節約は」[複主]< -säästö

●フィンランド語理解のための訳例

脱成長経済は|そして|技術的な|革新を|強調するような|思考法は|しうる|支える|おたがいを|
 あるいは|ある|矛盾の中に|おたがいに。環境の|視点から|資源を|節約するような|技術は|であ
 る|よい|こと。より本質的な|である|しかしながら|<次の>[ことが、|何を|節約された|資源により|
 行われる]。使用されるのか|それらを|さらなる成長の|引き起こすことへ、|そのとき|節約は|最終
 的に|生まれない。あるいは|であるのか|資源の節約は|事実の。

◎意訳

脱成長経済と技術革新を重要視する考え方はおたがいを支え合う可能性もあるし、あるいはおた
 がいに矛盾する可能性もある。環境問題という視点からすれば、資源を節約するような技術の存在
 自体は好ましいことである。しかし、より重要なのは節約された資源により何が行われるのかとい
 うことである。それらはさらなる成長を生み出すために使われるのだろうか。そうであれば、最終的に節
 約が生じることはない。あるいは資源の節約そのものが事実なのだろうか。

【16】「循環経済」は必ずしも環境収容力の限界内にはおさまらない

Kasvutalouteen hirttäytyneet teknologian kehityspolut eivät ole kohtuutalouden mukaisia, mutta kohtuutaloudessakin tapahtuu varmasti ekologisen teknologian kehitystä. Kohtuutalouden näkökulmasta esimerkiksi resurssien ja materiaalien tehokkuuden käyttöä korostava kiertotalous ei välttämättä pysy luonnon kantokyvyn rajoissa, ellei erikseen rajoiteta luonnonvarojen kulutusta.

■語句・文法

hirttäytyneet「しがみついたような」[複主]< hirttäytynyt 能過分 < hirttäytyä < hirttää < hirsi/
 kehitys-polut「発展の道筋は、開発の道筋は」[複主]< -polku/mukaisia「~に沿うような、~にし
 たがうような」[複分]< mukainen/korostava「強調するような」能現分 < korostaa/kierto-
 talous「循環経済」/välttämättä「必ず(しも)」MA 不[欠]< välttää/pysyä「とどまる」/kanto-
 kyvyn「(環境)収容力の」[属]< -kyky/rajoissa「境界の中に、限界の中に」[複内]< raja/ellei
 「もし~でなければ」(= jollei = jos ei)/erikseen「別に、個別に」[変]+ 単 3 所接 < eri/ei
 rajoiteta「制限される」受現否< rajoittaa < raja(この否定形のうち否定動詞 ei は ellei の中に含ま
 れています)

●フィンランド語理解のための訳例

成長経済へ|しがみつような|技術の|開発の道筋は|ではない|脱成長経済の|沿うような、|しかし|脱成長経済においても|起こる|確実に|生態的な|技術の|発展は。脱成長経済の|視点から|たとえば|資源の|そして|材料の|効率性の|利用を|強調するような|循環経済は|必ずしも|とどまらない|自然の|収容力の|限界の中に、|もし~でなければ|別に|制限されくなければ|天然資源の|消費を。

◎意訳

成長経済に固執してきた技術開発の道筋は脱成長経済の考え方に沿うものではないが、脱成長経済においても環境に配慮した技術開発はたしかに行われる。脱成長経済の視点からすると、たとえば資源や原材料の効率性を活用することを重視する循環経済は、天然資源の消費を別に制限するのでなければ、必ずしも自然の環境収容力の限界内にはおさまらないだろう。

【17】「グリーン成長」は生物物理学的法則にしたがおうとしない

Vihreän kasvun ajatus perustuu talouden ja ympäristövahingon irtikytkennän oletukseen (ts. talous voi kasvaa ja ympäristövahingot vähentyä samanaikaisesti), jolle ei löydy tutkimuksesta vakuuttavia perusteita. Se ei myöskään suhtaudu vakavasti energiantuotannon ja materiaalisten resurssien käytön fyysisiin reunaehtoihin. Mikään materiaallinen ei voi kasvaa loputtomiin – talous on alistainen biofyysisille laeille.

■語句・文法

vihreän kasvun「グリーン成長の」[属]< vihreä kasvu/ ympäristö-vahingon「環境破壊の」[属]< -vahinko/ oletukseen「想定へ、仮説へ、前提へ」[入]< oletus < olettaa < olla/ ts. = toisin sanoen「別の言い方をすれば、言い換えれば」(toisin[複具]< toinen、sanoen e 不[具]) / vähentyä「減る」< vähentää < vähä/ saman-aikaisesti「同時に」[副]< -aikainen/ jolle「それへ」[向]< joka/ vakuuttavia「納得させるような」[複分]< vakuuttava 能現分 < vakuuttaa ⇒ vakaa/ perusteita「根拠は」[複分]< peruste/ suhtautua「向き合う、対する」/ vakavasti「真剣に」[副]< vakava/ materiaalisten resurssien「物質的資源の」[複属]< materiaallinen resurssi/ fyysisiin「物理的な」[複入]< fyysinen/ reuna-ehtoihin「前提条件へ」[複入]< -ehto/ mikään「何も(～ない)、どの…も(～ない)」/ loputtomiin「際限なく、止めどなく」[複入]< loputon < loppu/ alistainen「従属するような」/ bio-fyysisille「生物物理学の」[複向]< -fyysinen/ laeille「法に、法則に」[複向]< laki(「生物物理学」については「★補足」を参照)

●フィンランド語理解のための訳例

グリーンの|成長の|考え方は|もとづく|経済の|そして|環境破壊の|デカップリングの|仮説に| (別の言い方をすれば|経済は|できる|成長する|そして|環境破壊は|減るくことができる)|同時に、|それへ|見つからない|研究において|納得させるような|根拠は。それは|また|向き合わない|

真剣に|エネルギー生産の|そして|物質的な|資源の|利用の|物理的な|前提条件に。どの|物質的なものも|できない|成長する|際限なく—経済は|である|従属するような|生物物理学的な|法則に。

◎意訳

グリーン成長という考え方は、経済と環境破壊に関するデカップリングという想定（言い換えれば、経済が成長すると同時に環境破壊は減少することが可能だという想定）にもとづいているが、そのような想定について説得力のある根拠は研究において見つかりはしない。グリーン成長という考え方はまた、エネルギー生産や物質的資源の利用にとっての物理的な制約というものに真剣に向き合おうとはしない。いかなる物質も際限なく成長することはできないのである—つまり、経済は生物物理学的な法則にしたがうべきものなのである。

★補足

「生物物理学」についての説明を引用しておきます。

生物物理学は、生命の本質を物理的考え方、物理的方法で研究し理解しようとする学問です。生命は物質で構成されています。その物質から、どのように生命現象が引き起こされるのでしょうか。生命を構成する物質には分子から個体そして生態系まで階層構造が見られます。生命らしさが現れる最も小さい単位は、タンパク質分子や DNA などの生体高分子です。生体高分子が自己組織化して細胞小器官、さらには細胞が、そして細胞が集まることで器官や個体ができ上がります。様々な個体集団からなる生態系が生命の階層構造の最上位に位置しています。生物物理学の目的は、各階層における生命現象について、物質科学的基礎を理解し、その階層をつなぐ原理原則を見だし生命現象を解き明かすことです。そのためには、革新的なアイデアや創意工夫を凝らした新しい研究手法や解析法の開発が必要です。研究者がその叡智を最大限に発揮する学問です。

生物物理学は、真理の探究を通して社会の発展に貢献します。これからの高度高齢化社会における QOL (Quality of Life) の向上や、医療技術の進歩に、生物物理学の成果は大いに貢献するでしょう。また、高度情報化社会におけるマン・マシン・インターフェイスの、技術的な諸課題、情報化に伴う心の問題の解決にも生物物理学の成果は役立ちます。持続可能な地球環境の実現にも、生命の物質科学的基礎の理解とその応用は重要なものとなるでしょう。

📖 引用記事

原田慶恵. 2019. 「生物物理とは」. 『一般社団法人日本生物物理学会』
<<https://www.biophys.jp/highschool/about.html>>

【18】課題となるのは構造的な問題

Nämä seikat ovat osoituksia siitä, että kyse on rakenteellisesta ongelmasta. Vallitsevat toimintatavat ovat niin ekologisesti, sosiaalisesti kuin taloudellisesti kestäättömiä. Kasvun rajojen tultua vastaan moni on alkanut kyseenalaistaa kasvun tavoittelun mielekkyyden.

■ 語句・文法

nämä seikat「これらの事柄は」[複主]<tämä seikka(「これらの事柄」とは、たとえば経済成長を追い求める現在の体制が不安定な状況を生み出してしまっており、あるいは環境問題を解決する我々の能力を制限してしまっているといったことをさしています。) / osoituksia「示すもの、示すこと」[複分]<osoitus<osoittaa / siitä, että ~「~だということについて」 / rakenteellisesta ongelmasta「構造的な問題について」[出]<rakenteellinen ongelma (rakenteellinen < rakenne < rakentaa) / vallitsevat「支配するような、支配的な」[複主]<vallitseva 能現分 < vallita / kestäättömiä「持続不可能な」[複分]<kestämätön 否分 < kestää / tultua「来たときに」受過分[分]<tulla[時構] / vastaan「(自分に) 対して、(自分の) 方へ」 / kyseenalaistaa「疑う」<-alainen / mielekkyyden「合理性を、妥当性を」[属対]<mielekkyys < mielekäs < mieli

● フィンランド語理解のための訳例

これらの|事柄は|である|示すもの|[ついて、|〈次の〉|ことに|問題は|である|構造的な|問題について]。支配しているような|行動の方法は|である|生態的にも、|社会的にも|そして|経済的にも|持続不可能な。[成長の|限界の|来たときに|(自分に) 向かって]|多くの人は|始めている|疑う|成長の|追及の|合理性を。

◎ 意訳

これらの事柄は、課題となるのは構造的な問題であることを示している。〈現在〉支配的になっている行動様式は生態的・社会的にも、そして経済的にも持続不可能なものとなっている。成長の限界に直面したときに、多くの人は成長を追求することの合理性を疑い始めている。

【19】「構造」の変化は「文化」の変化を要求する

Korostaa, että teknologisten innovaatioiden lisäksi tarvitaan syvällistä rakenteiden uudistamista ja kulttuurista muutosta, kuten elintapojen ja kulutuskäyttäytymisen muutoksia.

■ 語句・文法

文の主語が明示されていませんが、主語は kohtuu-talous「脱成長経済」です / teknologisten innovaatioiden「技術革新の」[複属]<teknologinen innovaatio / tarvitaan「必要とされる」受現 < tarvita / syvällistä「根本的な」[分]<syvällinen < syvä / rakenteiden「構造の」[複属]<rakenne < rakentaa / uudistamista「革新することを、刷新することを」[分]<uudistaminen 動名 <

uudistaa < uusi / elin-tapojen 「生活様式の」 [複属] < -tapa / kulutus-käyttämisen 「消費行動の」 [属] < -käyttäytyminen 動名 < käyttäytyä

●フィンランド語理解のための訳例

強調する、|<次の> [ことを|技術的な|革新の|加えて|必要とされる|根本的な|構造の|刷新を|そして|文化的な|変化を、|<次の> ような|生活様式の|そして|消費行動の|変化を]。

◎意訳

<脱成長経済は> 技術革新に加えて根本的な構造改革が、そして生活様式や消費行動の変化などのような文化的変化が必要とされることを強調する。

★補足

繰り返しになりますが、問題は構造的なものです。そして、その構造を変えるためにもっとも重要なことは、私たちの価値観や行動様式、そして生活様式が、つまりは「文化」が変わるということです。文化が急激に変化することは難しいと思いますが、それでも文化が確実に変化していると考えられる事例はすでに数多く存在しています。そのあたりに話を進めていきます。

【20】「選択肢はない」という言葉にだまされてはいけない

Kasvuajattelulle kuitenkin tarjotaan ja toivotaan vaihtoehtoja jo nyt: jakamistalous, materiaalien kierrätys ja zero waste -liike ovat vain muutamia esimerkkejä. Laajempi murros on pitkällä aikavälillä mahdollista, jos yhteiskunta osoittaa halua muutokseen. Olennaista on laajentaa näkökenttäämme ja tuoda uusia visioita vallitsevalle vaihtoehdottomuuden retoriikan tilalle.

■語句・文法

tarjotaan 「提供される」 受現 < tarjota / toivotaan 「望まれる」 受現 < toivoa / jakamis-talous 「共有経済、シェアリングエコノミー」 / kierrätys 「リサイクル」 / zero waste -liike 「ゼロ・ウェイスト運動、廃棄物ゼロ運動」 / laajempi 「より広い」 比 < laaja / murros 「変革、転換」 < murtaa / muutokseen 「変化へ」 [入] < muutos < muuttaa / laajentaa 「広げる」 < laaja / näkö-kenttäämme 「我々の視野を」 [分]+ 複 1 所接 < -kenttä / visioita 「展望を、ビジョンを」 [複分] < visio / vallitsevalle 「支配的になっているような」 [向] < vallitseva 能現分 < vallita / vaihto-ehdottomuuden 「選択肢がないことの、代替案がないことの」 [属] < -ehdottomuus < -ehdoton < -ehto / retoriikan 「修辞学の、レトリックの、決まり文句の、巧みな言い回しの」 [属] < retoriikka / tilalle 「代わりに」 [向] < tila

●フィンランド語理解のための訳例

成長思考へ|しかしながら|提供される|そして|望まれる|代替策を|今|すでに:|共有経済は、|物資の|リサイクルは|そして|廃棄物ゼロ運動は|である|ただ|いくつかの|例。より広い|変革が|である|[長い|期間において]|可能な、|もし|社会が|示す|願望を|変化へ。本質的な|である|広げることが|我々の視野を|そして|もってくる|新しい|展望を|支配的となっているような|代替策のな

いことの|決まり文句の|代わりに。

◎意識

しかし、成長くが何よりも重要だとする思考に対してはすでに今、代替策が提供されているし、また望まれてもいる：共有経済、モノのリサイクル、そして廃棄物ゼロ運動は〈それらに関する〉ほんのいくつかの例である。もし社会が変化への願望を示すのであれば、長期的にはより広範な変革が可能である。本質的に重要なことは我々の視野を広げ、支配的となっている「選択肢はないのだ」という巧言に代わる新たな展望をもたらすことである。

【21】成長とは我々が作り出した「必然」、そうであれば変えられるはず

Muutos edellyttää ainakin ymmärrystä siitä, että kasvuriippuvuudelle on olemassa vaihtoehtoja. Talous on ihmisen rakentama järjestelmä, jota voi ja pitääkin muuttaa. Kasvu on pakko, jonka olemme itse luoneet. Tietoisuus kasvun rajoista pitäisi pystyä konkretisoimaan poliittisiksi päätöksiksi, käytännön ratkaisuiksi ja toimiksi nykyistä huomattavasti laajemmassa mittakaavassa.

■語句・文法

ymmärrystä「理解を」[分] < ymmärrys < ymmärtää / siitä, että ~「~だということについて」(siitä [出] < se) / kasvu-riippuvuudelle「成長依存に対して」[向] < -riippuvuus < riippuva 能現分 < riippua / on olemassa「存在する」/ rakentama「構築するような」動分 < rakentaa / pakko「強制、必然」/ jonka「それを」[属対] < joka / tietoisuus「認識を」< tietoinen < tieto < tietää (この tietoisuus は pitäisi pystyä konkretisoimaan「具体化できなければならないだろう」の目的語ですが、「~しなければならない」という表現の対格目的語はふつう主格になります) / pitäisi「しなければならないだろう」[条] 単 3 現 < pitää / pystyä「できる」(+ [入] ~ MA 不 [入]) / konkretisoimaan「具体化する」MA 不 [入] < konkretisoida / poliittisiksi päätöksiksi「政治的決定へ、政治的決定として」[複変] < poliittinen päätös (pätös < päättää) / käytännön ratkaisuiksi「現実的な解決策へ、現実の解決策として」(käytännön [属] < käytäntö、ratkaisuiksi [複変] < ratkaisu < ratkaista) / toimiksi「行動へ、行動として」[複変] < toimi / nykyistä「現在よりも」[分] < nykyinen (この分格は laajemmassa という比較級と結びついて比較の対象を表します) / huomattavasti「著しく」[副] < huomattava 受現分 < huomata / laajemmassa「より広い」[内] < laajempi 比 < laaja / mitta-kaavassa「規模において、スケールにおいて」[内] < -kaava

●フィンランド語理解のための訳例

変化は|前提とする|少なくとも|理解を|[ついて、|〈次の〉ことに|成長依存に対して|存在する|選択肢が]。経済は|である|人間が|構築する|体制、|それを|できる|そして|しなければならない|変える。成長は|である|必然、|それを|我々自身が|作り出した。認識を|成長の|限界について|しなければならないだろう|できる|具体化する|政治的な|決定へ、|現実の|解決策へ|そして|行動へ|現在よりも|著しく|より広い|規模において。

◎意訳

変化を達成するためには、少なくとも成長依存に対して他の選択肢が存在するということを理解する必要がある。経済とは人間が作り出す体制であり、それは変えられるし、現実に変えなければならないのである。成長とは我々自身が作り出した必然にすぎないのである。成長の限界に対する認識というものを現在よりもはるかに広範な規模において、具体的な政治的決定へ、現実の解決策へ、そして行動へと変えていくことができなければならないだろう。

【22】脱成長の考え方はすでに日常の一部にもなっている

Keskeisiä teesejä kohtuutalouskeskustelussa ovat esimerkiksi työajan lyhentäminen, velkapohjaisesta rahajärjestelmästä irtautuminen ja luonnonvarojen hyödyntämisen rajoittaminen. Monet kohtuutalouden mukaiset toimintamallit, kuten jakamistalous, paikallisvaluutat, kalastuskiintiöt ja rajoitukset torjunta-aineiden käytössä tai tupakkatuotteiden mainonnassa ovat jo arkipäivää. Vaihtoehtoja on runsaasti: haluammeko esimerkiksi lisätä osuustoimintaa, tukea lähiruoan tuotantoa tai rajoittaa lentoliikennettä – vai osakeyhtiöiden, tehokkaiden suurtilojen ja lentokenttälaajennusten tuomaa talouskasvua, varjopuolista huolimatta?

■語句・文法

teesejä 「主張、命題」[複分]< teesi/lyhentäminen「短くすること」動名 < lyhentää < lyhetä < lyhyt/velka-pohjaisesta「負債にもとづくような」[出]< -pohjainen/irtautuminen「離脱すること」動名 < irtautua/hyödyntämisen「利用することの」[属]< hyödyntäminen 動名 < hyödyntää < hyöty/rajoittaminen「制限すること」動名 < rajoittaa < raja/jakamis-talous「共有経済」/paikallis-valuutat「地域通貨」[複主]< -valuutta/kalastus-kiintiöt「漁獲枠、漁獲割当て、漁獲制限」[複主]< -kiintiö < kiinteä/torjunta-aineiden「殺虫剤の、農薬の」[複属]< -aine/tupakkatuotteiden「たばこ製品の」[複属]< -tuote/mainonnassa「広告において」< mainonta ⇒ mainos/arki-päivää「平日、日常(の一部)」[分]< -päivä/osuus-toimintaa「協同組合活動を」[分]< -toiminta/lähi-ruoan「地元食材の」[属]< -ruoka/osake-yhtiöiden「株式会社の」[複属]< -yhtiö/suur-tilojen「大農場の、大規模農場の」[複属]< -tila/lento-kenttä-laajennusten「空港拡張の」[複属]< -laajennus < laajentaa < laaja/tuomaa「もたらすような」[分]< tuoma 動分 < tuoda/varjo-puolista「影の側面、負の側面、不利益」[複出]< -puoli/huolimatta「～にもかかわらず」MA 不[欠](+[出])< huolia

●フィンランド語理解のための訳例

中心的な|主張|脱成長経済議論における|である|たとえば|労働時間の|短くすること、|負債にもとづくような|貨幣制度から|離脱すること|そして|天然資源の|利用することの|制限すること。多くの|脱成長経済の|したがるような|行動モデルは、|<次の>[ような|共有経済、|地域通貨、|漁獲枠|そして|制限|農薬の|使用における|あるいは|タバコ製品の|広告における|である|すでに|日

常の一部]。選択肢は|ある|十分に:|我々は望むのか|たとえば|増やす|協同組合活動を、|支える|地元食材の|生産を|あるいは|制限する|航空輸送を—あるいは|株式会社の、|効率的な|大規模農場の|そして|空港拡張の|もたらすような|経済成長を、|影の部分に|かかわらず。

◎意訳

脱成長経済に関する議論において中心的な主張となるのは、たとえば労働時間を短縮すること、債務にもとづくような貨幣制度から脱却すること、そして天然資源の利用を制限することなどである。共有経済、地域通貨、漁獲割当て、そして農薬の使用やタバコ製品の広告における制限などのような、脱成長経済の考え方にもとづく多くの行動モデルはすでに日常生活の一部となっている。選択肢は十分にあり得るのである:我々は協同組合活動を増やしたいのか、地元食材の生産を支援したいのか、あるいは航空輸送を制限したいのか—それとも我々は株式会社、効率的な大規模農場、そして空港拡張のもたらす経済成長を、その負の側面にもかかわらず我々は望むのか。

★補足

脱成長経済という考え方にもとづく行動として共有経済、地域通貨、漁獲割当て、そして農薬の使用やタバコ製品の広告の制限、そして協同組合活動や地元食材の生産支援、さらに航空輸送の制限などが挙げられています。これらのうち共有経済については資料IV-4で、地域通貨としての時間銀行についてはIV-7で、そして協同組合についてはIV-6で扱いました。

それでは、次にはリサイクル、倫理的銀行、労働と最低限所得保障(ベーシックインカム)、そして広告について、脱成長という視点から考えていきます。

【23】フィンランド初の脱成長経済企業

Pääkaupunkiseudun Kierrätyskeskus Oy julistautui 24.9.2010 Kasvu murroksessa -seminaarin yhteydessä Suomen ensimmäiseksi kohtuutalousyrietykseksi. Se tarkoittaa, että Kierrätyskeskus edistää taloutta, jossa toimitaan ympäristön kantokyvyn rajoissa. Liiketoiminnan päämääränä ei ole osakkeenomistajien varallisuuden kasvattaminen.

■語句・文法

pää-kaupunki-seudun「首都圏の」[属]<-seutu/Kierrätys-keskus Oy「リサイクル・センター株式会社は」(kierrätys < kierrättää < kiertää, Oy = osake-yhtiö) / julistautua「(自分が~であると)宣言する」< julistaa / Kasvu murroksessa -seminaarin「成長は変革の中に」セミナーの / yhteydessä「~との関係において、~の際に」[内]< yhteys < yksi / ensimmäiseksi kohtuu-talous-yrietykseksi「最初の脱成長企業だと」[変]< ensimmäinen kohtuu-talous-yrietyks / toimitaan「行動される」受現 < toimia / kanto-kyvyn「(環境)収容力の」[属]< -kyky / rajoissa「限度内で」[複内]< raja / liike-toiminnan「企業活動の、事業活動の」[属]< -toiminta / osakkeen-omistajien「株主たちの」[複属]< -omistaja < omistaa < oma / varallisuuden「富の」[属]< varallisuus < varallinen < vara / kasvattaminen「成長させること」動名 < kasvattaa < kasvaa

●フィンランド語理解のための訳例

首都圏の|リサイクル・センター株式会社は|宣言した|2010年09月24日に|「成長は変革の中に」セミナーの|際に|フィンランドの|最初の|脱成長経済企業だと。それは|意味する、|〈次の〉[ことを|リサイクル・センター社は|促進する|経済を、|そこで|行動する|環境の|収容力の|限界の中で]。事業活動の|目的として|ない|株主たちの|富の|成長させることは。

◎意訳

首都圏のリサイクル・センター株式会社は、2010年9月24日の「成長は変革の中に」セミナーにおいて、自らがフィンランドにおける最初の脱成長経済企業であることを宣言した。それが意味するのは、リサイクル・センター社は環境の収容力の限界の中で業務を行うような経済を促進するということである。その事業活動の目的となるのは、株主たちの財産を増やすことではない。

【24】リサイクル・センター社は株主に利益を分配しない

Hyvinvointia kartutetaan tuotantoa ja kulutusta kasvattamatta. Kierrätyskeskus ei jaa voittoa omistajilleen, vaan kaikki tuotot käytetään yrityksen mission mukaiseen työhön. Toiminnan tavoitteena on elinympäristön parantaminen tavaroiden uudelleenkäyttöä edistämällä sekä tarjoamalla ympäristökasvatusta ja -koulutusta erilaisille ryhmille.

■語句・文法

kartutetaan「蓄積される」受現 <kartuttaa <karttua / kasvattamatta「成長させずに」MA 不[欠] <kasvattaa / ei jaa「分けない」単 3 現否 <jakaa / voittoa「利益を」[分] <voitto <voittaa / omistajilleen「(自らの)所有者たちへ」[複向]+ 単 3 所接 <omistaja / tuotot「収益を」[複主対] <tuotto <tuottaa / mission「使命の、ミッションの」[属] <missio / elin-ympäristön「生活環境の」[属] <-ympäristö / parantaminen「改善すること、よりよくすること」動名 <parantaa <parata ⇒ parempi, paras / uudelleen-käyttöä「再利用を」[分] <-käyttö / edistämällä「促進することにより」MA 不[接] <edistää / tarjoamalla「提供することにより」MA 不[接] <tarjota / ympäristö-kasvatusta ja -koulutusta「環境学習と環境教育を」[分] <ympäristö-kasvatus ja -koulutus (kasvatus <kasvattaa <kasvaa, koulutus <kouluttaa <koulu。kasvatus と koulutus をどのように訳し分ければよいか難しい問題ですが、ここでは「学習」と「教育」としておきます。)

●フィンランド語理解のための訳例

福祉・厚生を|蓄積される|生産を|そして|消費を|成長させずに。リサイクル・センター社は|分け|ない|利益を|所有者たちへ、|〈そうではなく〉|すべての|収益を|使われる|企業の|使命の|したがうような|仕事へ。活動の|目的として|ある|生活環境の|改善することが|品物の|再利用を|促進することにより|さらに|提供することにより|環境学習を|そして|〈環境〉教育を|さまざまな|集団へ。

◎意訳

生産や消費を拡大することなく〈人々の〉福祉・厚生を増進させるのである。リサイクル・センター

社は利益を株主たちに分配することはせず、すべての収益は企業の使命に沿った業務へ費やされる。その活動の目的となるのは、品物の再利用を促し、あるいはさまざまな集団に対して環境学習や環境教育を提供することにより、生活環境を改善することにある。

【25】リサイクル・センター社の業務とは？

Kierrätyskeskus ottaa vastaan, huoltaa, korjaa, lahjoittaa ja myy eteenpäin käytettyjä tavaroita myymälöissään. Se myös valmistaa uusiotuotteita. Asiakkaille tarjotaan helppoja keinoja tehdä arjen ekotekoja ja vähentää luonnonvarojen kulutusta. Kierrätyskeskuksesta voi esimerkiksi lainata maksutta kuljetuspyörän tai kuomullisen peräkärryn tavaroiden kuljettamiseen. Juhlien järjestäjä saa astiaston lainaan panttia ja pesumaksua vastaan.

■ 語句・文法

ottaa vastaan「受け入れる、受けつける、迎える」／huoltaa「整備する」／lahjoittaa「贈る」< lahja
／eteen-päin「前方へ、さらに」／käytettyjä「使用されたような、中古の」[複分]< käytetty 受過分
< käyttää／myymälöissään「(自らの)売店において」[複内]+ 単₃所接 < myymälä < myydä
／uusio-tuotteita「再生製品を、リサイクル製品を」[複分]< -tuote (uusio- < uusi ⇒ uusio-paperi
「再生紙」)／arjen「日常の」[属]< arki／eko-tekoja「エコ活動を、環境に配慮した行動を」[複分]
< -teko < tehdä／maksutta「料金なしで」[欠]< maksu < maksaa／kuljetus-pyörän「運搬用自転車
を、カーゴバイクを」[属対]< -pyörä (kuljetus < kuljettaa < kulkea)／kuomullisen「(開閉式の)
屋根のついた」[属対]< kuomullinen < kuomu／perä-kärryn「(自転車などにつけられる)トレーラ
ーを」[属対]< -kärry／kuljettamiseen「運ぶために」[入]< kuljettaminen 動名 < kuljettaa
／järjestäjä「開催者」< järjestää／saada lainaan「借りる(ことができる)」／astiaston「食器類を、食
器一式を」[属対]< astiasto < astia／panttia「保証金、デポジット」[分]< pantti／pesu-maksua
「洗浄料金」[分]< -maksu／vastaan「~に対して」(+ [分])

● フィンランド語理解のための訳例

リサイクル・センター社は|受け付ける、|整備する、|修理する、|贈る|そして|[売る|さらに]|使用
された|品物を|(自らの)売店において。それは|また|作る|再生製品を。客たちへ|提供される|容
易な|手段を|するための|日常の|エコ活動を|そして|減らすための|天然資源の|消費を。リサイク
ル・センター社から|できる|たとえば|借りる|料金なしで|運搬用自転車を|あるいは|屋根のつ
いた|トレーラーを|品物の|運ぶために。パーティーの|主催者は|得る|食器一式を|賃借へ|保証金
に|そして|洗浄料金に|対して。

◎ 意訳

リサイクル・センター社は中古品を受け付け、整備・修理し、寄贈し、あるいは売店において次の利
用者へ販売する。それはまた再生製品の製造もおこなう。同センターは顧客に対して、日常生活にお
いて環境に配慮した活動をし、天然資源の消費を減らすための容易な方法を提供する。たとえばリ

サイクル・センター社からは、荷物を運ぶために運搬用自転車や屋根つきトレーラーを無料で借りることができる。あるいは、パーティーの開催者は保証金と洗浄料金を支払うことにより、食器一式を借りることができる。

【26】リサイクル・センター社は地域経済にも貢献

Ympäristövastuun lisäksi Kierrätyskeskus edistää paikallistaloutta. Tärkeä tavoite on lisätä osallisuuden ja työnteon mahdollisuuksia. Kierrätyskeskus työllistää erityisesti vaikeassa työmarkkinatilanteessa olevia työnhakijoita; sen työntekijöistä vähintään kolmannes on pitkäaikaistyöttömiä ja osatyökykyisiä. Yritys myös tarjoaa mahdollisuuksia mielekkääseen vapaaehtoistyöhön.

■ 語句・文法

ympäristö-vastuun「環境〈に対する〉責任の」[属]<-vastuu< vastata/ paikallis-taloutta「地元経済を」[分]<-talous/ osallisuuden「参加することの、関与することの、包摂の」[属]< osallisuus < osallinen < osa/ työn-teon「労働の」[属]<-teko/ työllistää「雇用する、就労させる」< työllinen < työ/ työ-markkina-tilanteessa「労働市場状況に」[内]<-tilanne/ olevia「いるような」[複分]< oleva 能現分 < olla/ työn-hakijoita「求職者たちを」[複分]<-hakija < hakea/ työn-tekijöistä「労働者たちのうち」[複出]<-tekijä < tehdä/ vähintään「少なくとも」[分]+ 単 3 所接 < vähin 最 < vähä/ kolmannes「3分の1は」< kolmas < kolme/ pitkä-aikais-työttömiä「長期失業者たち」[複分]< työtön < työ/ osa-työ-kykyisiä「長期的、あるいは一時的に就労能力が低下している人々」[複分]<-kykyinen < kyky/ mielekkääseen「有意義な」[入]< mielekäs < mieli/ vapaa-ehtoistyöhön「ボランティア活動へ」[入] <-työ

● フィンランド語理解のための訳例

環境〈に対する〉責任の|加えて|リサイクル・センター社は|促進する|地元経済を。重要な|目標は|である|増やすこと|参加することの|そして|労働の|可能性を。リサイクル・センター社は|雇用する|とくに|難しい|労働市場状況に|いるような|求職者たちを;|その|労働者たちのうち|少なくとも|3分の1は|である|長期失業者たち|そして|就労能力が低下している人々。企業は|また|提供する|可能性を|有意義な|ボランティア活動へ。

◎ 意識

環境に対する責任に加え、リサイクル・センター社は地域経済にも貢献している。重要な目的は、〈社会〉参加と就労の機会を増大させることである。リサイクル・センター社は、とくに労働市場において困難な状況に直面する求職者たちを雇用する;その労働者のうち少なくとも3分の1は長期失業者や就労能力が不足しているとされる人々である。リサイクル・センター社はまた、有意義なボランティア活動への機会も提供する。

★ 補足

耳慣れない言葉かもしれませんが「倫理的銀行(エシカルバンク)」というものについて見ていく

ことにします。そこでは、以前勉強した「時間銀行」も話題になります。

【27】倫理的銀行(エシカルバンク)に対する関心

Vuoden 2008 finanssikriisi lisäsi yleistä kiinnostusta eettiseen pankkitoimintaan. Talouskriisit ovat vieneet monen luottamuksen perinteisten pankkien toimintaan ja rohkaisseet etsimään vaihtoehtoja.

■ 語句・文法

finanssi-kriisi「金融危機は」／kiinnostusta「関心を、興味を」[分]< kiinnostus < kiinnostaa ⇒ kiinteä, kiinni／eettiseen pankki-toimintaan「倫理的な銀行業務へ」[入]< -toiminta／monen「多くの人の」[属]< moni／luottamuksen「信頼を」[属対]< luottamus < luottaa／rohkaista「勇気づける、うながす」

● フィンランド語理解のための訳例

2008年の|金融危機は|増やした|一般的な|関心を|倫理的な|銀行業務へ。経済危機は|もって|行った|多くの人の|信頼を|伝統的な|銀行の|業務へ|そして|勇気づけた|さがすよう|選択肢を。

◎ 意識

2008年の金融危機により、倫理的な銀行業務に対する一般の人々の関心が高まった。経済危機は、多くの人は伝統的な銀行業務に対する信頼を失わせ、他の選択肢をさがすよう促した。

【28】倫理的銀行(エシカルバンク)は何をして、何をしないのか？

Eettiset pankit eroavat tavallisista pankeista siten, että ne rahoittavat ainoastaan sosiaalisesti ja ekologisesti kestäviä hankkeita sekä kulttuuria. Tällaisia ovat esimerkiksi luomuruokakauppa, ekologinen viljely ja uusiutuvien energialähteiden kehittäminen. Asiakkaista monet ovat pienyrityksiä. Lainoja ei myönnetä projekteihin, jotka pankin arvion mukaan tuhoavat luontoa tai toimivat muuten epäeettisesti.

■ 語句・文法

eettiset pankit「倫理的銀行は、エシカルバンクは」[複主]< eettinen pankki(「倫理的銀行、エシカルバンク」とは環境や社会にとって持続可能な活動に資金を融資するような金融機関のことをさすようです)／eroavat「異なる」複3現 < erota(+[出])< ero／siten, että~「~の方法で~の点において、~であるように」／rahoittaa「融資する」< raha／hankkeita「計画に、プロジェクトに」[複分]< hanke／luomu-ruoka-kauppa「自然食品店」(luomu < luonnon-mukainen)／ekologinen viljely「生態系農業(★補足参照)」(viljely「農業、耕作」< viljellä < vilja)／uusiutuvien「再生するような」[複属]< uusiutuva 能現分 < uusiutua < uusi／energia-lähteiden「エネルギー源の」[複属]< -lähde／kehittäminen「発展させること、開発すること」動名 < kehittää／asiakkaista「客のうち」[複出]< asiakas < asia／pien-yrityksiä「(中)小企業」[複分]< -yritys < yrittää／lainoja「融資を、

貸し付けを、ローンを」[複分]< laina / ei myönnetä「認められない」受現否 < myöntää / projekteihin「プロジェクトへ、計画へ」[複入]< projekti / arvion「評価の」[属]< arvio / tuhoavat「破壊する」複 3 現 < tuhota < tuho / muuten「他の点において」/ epä-eettisesti「非倫理的に」[副]< -eettinen

●フィンランド語理解のための訳例

倫理的な|銀行は|異なる|ふつうの|銀行とは|<次のような>[点において|それらは|融資する|ただ|社会的に|そして|生態的に|持続可能な|プロジェクトに|そして|文化に]。このような|である|たとえば|自然食品店が|生態的な|農業が|そして|再生するような|エネルギー源の|開発することが。客たちのうち|多くは|である|小企業。融資を|認められない|プロジェクトへ、|それらは|銀行の|評価の|よれば|破壊する|自然を|あるいは|機能する|他の点において|非倫理的に。

◎意訳

倫理的銀行は通常の銀行と異なり、社会的・生態的に持続可能なプロジェクトや文化にのみ融資を行う。このようなものとして、たとえば自然食料品店、生態系農業、そして再生エネルギー源の開発などを挙げることができる。顧客のうち多くは小規模企業である。銀行の評価により自然を破壊するようなプロジェクト、あるいは何らかの点で非倫理的だと評価されるようなプロジェクトには融資は認められない。

★補足

ekologinen viljely という用語が登場しました。これに対応する英語は、おそらく ecological farming だと思います。たとえば、次のような説明がありますので、引用しておきます。

生態系農業 (Ecological Farming) とは自然と生物多様性を重視し、最新の科学と技術革新をふまえた農法である。生態系農業は、健康的な農業と食料を約束してくれる。そして、土壌、水、気候を守り、化学物質や遺伝子組み替え作物によって環境汚染を引き起こすこともない。そして何よりも、現在食料をコントロールしている企業ではなく、人々と農家(消費者と生産者)とを最も中心におく農業のあり方である。

📖 引用記事

Baker, Martin & Daniel Kramb (日本語版制作: 国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン). 2015. 『生態系農業—人を中心とした職と農業の未来像—7つの原則』. 国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン. p.4.

【29】倫理的銀行(エシカルバンク)の特徴の一つは「透明性」

Eettisen pankkitoiminnan ominaispiirteisiin kuuluu myös läpinäkyvyys. Asiakkaille tiedotetaan avoimesti, mihin hankkeisiin heidän varojaan sijoitetaan. Suomalaisen eettisen pankkitoiminnan edistämiseksi perustettiin vuonna 2012 Pankki 2.0 -aloite.⁴⁵ Eettisten pankkien lisäksi ympäri maailmaa on perustettu aikapankkeja, joissa ihmiset vaihtavat palveluja tai hyödykkeitä.

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

45 Lue lisää Pankki 2.0. -aloitteesta: <http://www.pankki2.fi/>

■語句・文法

ominaispiirteisiin「特徴へ」[複入]<-piirre/läpi-näkyvyys「透明性が」(näkyvyys<näkyvä 能現分<näkyä<nähdä)/tiedotetaan「知らされる」受現<tiedottaa<tieto<tietää/avoimesti「開かれて、オープンに」[副]<avoin/mihin hankkeisiin「どのプロジェクトへ」[複入]<mikä hanke/varojaan「(自分たちの)資金を」[複分]+複 3 所接<vara/sijoitetaan「投資される」受現<sijoittaa<sija/edistämiseksi「促進するために」[変]<edistäminen 動名<edistää/perustettiin「設立された」受過<perustaa/aloite「イニシアチブを、発議を、率先を」<aloittaa<alkaa/ympäri maa-ilmaa「世界中で」/on perustettu「設立されている」受完<perustaa/aika-pankkeja「時間銀行を」[複分]<-pankki (aika-pankki については資料IV-7で扱いましたので、そちらを参照してください)

●フィンランド語理解のための訳例

倫理的な|銀行業務の|特徴へ|含まれる|また|透明性が。客に|知らされる|オープンに、|どの|プロジェクトへ|彼らの|資金を|投資されるのか。フィンランドの|倫理的な|銀行業務の|促進するために|設立された|2012 年に|「銀行 2.0」イニシアチブを。倫理的な|銀行の|加えて|世界中で|設立されている|時間銀行を、|それらにおいて|人々は|交換する|サービスを|そして|有用品を。

◎意訳

倫理的銀行業務の特徴にはまた透明性も含まれている。自分たちの資金がどのようなプロジェクトに投資されるのかは、オープンな形で顧客に通知される。フィンランドにおける倫理的銀行業務を推進するために、2012 年には「銀行 2.0」イニシアチブが設立された。倫理的銀行に加え世界中で時間銀行が設立されてきているが、そこで人々はサービスや有用品を交換する。

★補足

次は労働の問題へ進みます。この問題は「最低限所得保障(ベーシックインカム)」の問題と合わせて、すでに資料Ⅲ-2でかなり詳しく取り上げました。そちらも参照してください。

【30】「脱成長」と「労働時間」

Moni kohtuutalousajattelijä painottaa työajan lyhentämisen tärkeyttä. Esimerkiksi brittiläinen ajatushautomo New Economics Foundation (NEF) on ehdottanut 21 tunnin työviikkoa ratkaisuksi ylityön, työttömyyden ja ylikulutuksen aiheuttamiin ympäristöongelmiin. Järjestön mukaan lyhyempi työviikko säästäisi sekä ihmistä että luontoa.

■ 語句・文法

painottaa「強調する、重視する」< paino/lyhentämisen「短くすることの」[属]< lyhentäminen 動名 < lyhentää < lyhyt/tärkeyttä「重要性を」[分]< tärkeys < tärkeä/ajatus-hautomo「シンクタンク、頭脳集団」/ratkaisuksi「解決策として」[変]< ratkaisu < ratkaista/yli-työn「残業の、時間外労働の、過重労働の」[属]< -työ/työttömyyden「失業の」[属]< työttömyys < työtön < työ/yli-kulutuksen「過剰消費の」[属]< -kulutus < kuluttaa < kulua/aiheuttamiin「引き起こすような」[複入]< aiheuttama 動分 < aiheuttaa/järjestön「組織の」[属]< järjestö/lyhyempi「より短い」比 < lyhyt/säästäisi「節約するだろう」[条]単 3 現 < säästää

● フィンランド語理解のための訳例

多くの|脱成長経済思想家は|強調する|労働時間の|短くすることの|重要性を。たとえば|イギリスの|シンクタンク|New Economics Foundation (NEF)は|提案している|21時間の|労働週を|[解決策として|過重労働の、|失業の|そして|過剰消費の|引き起こすような|環境問題へ]。組織の|よれば|より短い|労働週は|節約するだろう|人を|そして|自然を。

◎ 意訳

脱成長経済を唱える多くの人々は労働時間を短縮することの重要性を強調している。たとえばイギリスのシンクタンクである New Economics Foundation (NEF) は、過重労働、失業、そして過剰消費が引き起こしている環境問題への解決策として週 21 時間労働を提案している。同組織によれば、週労働時間を短縮することにより人間と自然の両方を守ることになる。

【31】労働時間の短縮がもたらすもの

Kulutus pienenisi työtuntien vähennyttyä, ja ihmisillä olisi enemmän aikaa panostaa ekologisiin elämäntapoihin. Hyvinvointi puolestaan lisääntyisi, kun perheelle, harrastuksille, vapaaehtoistyölle ja yhteiskunnalliselle aktiivisuudelle jäisi enemmän aikaa. Samalla palkattoman kotityön arvostus kasvaisi ja tasa-arvo lisääntyisi.³⁹

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

39 New Economics Foundation (2010)

New Economics Foundation (2010): 21 Hours – Why a shorter working week can help us all to

flourish in the 21st century.

http://b.3cdn.net/nefoundation/f49406d81b9ed9c977_p1m6ibgje.pdf (25.8.2015)

■ 語句・文法

pienenisi「小さくなるだろう」[条]単3現 < pienetä < pieni/työ-tuntien「労働時間の」[複属]< -tunti/vähennyttä「減った後で、減ったときに」[分]< vähennytty 受過分 < vähentyä[時構]/panostaa「(資金や労働力などを)費やす」< panos/puolestaan「一方で」[出]+ 単3 所接 < puoli/lisääntyisi「増えるだろう」[条]単3現 < lisääntyä < lisätä/aktiivisuudelle「積極性へ、積極的に参加することへ」[向]< aktiivisuus < aktiivinen/jäisi「残るだろう」[条]単3現 < jäädä/palkattoman「無給の」[属]< palkaton < palkka/arvostus「(肯定的な)評価」< arvostaa < arvo/kasvaksi「大きくなるだろう」[条]単3現 < kasvaa

● フィンランド語理解のための訳例

消費は|小さくなるだろう|労働時間の|減ったときに、|そして|人々には|あるだろう|より多く|時間が|費やすための|生態的な|生活形態へ。福祉・厚生は|一方で|増えるだろう、|〈次の〉[ときに|家族へ、|趣味へ、|ボランティア活動へ|そして|社会的な|積極性へ|残るだろう|より多く|時間が]。同時に|無給の|家事の|評価は|大きくなるだろう|そして|〈男女〉平等は|増えるだろう。

◎ 意訳

労働時間が短縮されれば消費は減少するだろうし、人々にとっては環境にやさしい暮らし方に費やす時間もより多くなるだろう。一方で、家族や趣味、あるいはボランティア活動や社会的な活動により多くの時間を割くことができれば、〈人々の〉福祉・厚生も増進するだろう。同時に無給の家事は高く評価されるようになり、〈男女間の〉平等も高まるだろう。

【32】人の福祉・厚生は労働市場を通じて定義されてきた

Käytännön politiikassa hyvinvointi on määrittynyt kuitenkin voimakkaasti työmarkkinoiden kautta saavutettavana osallisuutena ja kulutusmahdollisuuksien kasvuna. Sosiaalipolitiikan tarkoituksena ei ole niinkään ollut ihmisten omien itsenäisten elämänvalintojen tukeminen, vaan heidän valintojensa ohjaaminen talouden ja työmarkkinoiden tarpeiden näkökulmasta.⁵

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

Aaltio, Elina (2013): *Hyvinvoinnin uusi järjestys*. Helsinki: Gaudeamus.

■ 語句・文法

käytännön「実践の、現実の」[属]< käytäntö/määrittä「決まる、決定される」< määrittää/voimakkaasti「力強く」[副]< voimakas < voima/saavutettavana「達成されるような、獲得されるような」[様]< saavutettava 受現分 < saavuttaa/osallisuutena「参加することとして、関与することとして、包摂されることとして」[様]< osallisuus < osallinen < osa/kulutus-mahdollisuuksien「消

費可能性の、消費機会の」[複属]< mahdollisuus < mahdollinen/kasvuna「成長として、拡大として」[様]< kasvu < kasvaa/niin-kään「あまり(～ではない)、それほど(～ではない)」/itsenäisten「自立した」[複属]< itsenäinen < itse/elämän-valintojen「生活・人生の選択の」[複属]< -valinta < valita/tukeminen「支援すること」動名 < tukea < tuki/ohjaaminen「導くこと、誘導すること」動名 < ohjata/näkö-kulmasta「視点から」[出]< -kulma

●フィンランド語理解のための訳例

現実の|政策において|福祉・厚生は|決定されてきている|しかしながら|強く|[労働市場の|通じて|達成されるような|参加することとして]|そして|[消費可能性の|拡大として]。社会政策の|目的として|なかった|あまり|人々の|自分の|自立した|人生の選択の|支援することが、|くそうではなく>|彼らの|選択の|導くことが|経済の|そして|労働市場の|必要性の|視点から。

◎意訳

しかし、現実の政策において<人の>福祉・厚生は、労働市場を通じて達成されるような社会参加として、そして消費の機会の拡大として強く定義されてきた。社会政策の目的とされてきたのは、人々自身の自律的な人生選択を支援することというよりは、あくまでも経済や労働市場の必要性という観点から人々の選択を誘導することだった。

★補足

以上で見てきた労働(時間)の問題に対して、解決のための可能性を与えてくれるものが perustulo「最低限所得保障(ベーシックインカム)」です。

【33】「最低限所得保障(ベーシックインカム)」とは何か?

Perustuloa tai kansalaispalkkaa on ehdotettu välineeksi jakaa keskittynyttä varallisuutta. Perustulo on ilman ehtoja jokaiselle yhteiskunnan jäsenelle maksettava tulo, jota ei voi periä takaisin. Erilaisten perustulomallien kirjo on suuri, mutta idea on kaikissa sama: kaikki saavat tuloja riippumatta esimerkiksi perhesuhteista, aiemmasta työstä tai elämäntavasta.

■語句・文法

perus-tulo「最低限所得保障、ベーシック・インカム」(これについては資料Ⅲ-2でかなり詳しく扱いました)/kansalais-palkka「市民給付」(ここでは perus-tulo とほぼ同じ意味として使われています)/on ehdotettu「提案されている」受完 < ehdottaa < ehto/välineeksi「道具として、手段として」[変]< väline/keskittynyttä「集中したような」[分]< keskittynyt 能過分 < keskittyä/ilman ehtoja「条件なしで」(ehtoja[複分]< ehto)/maksettava「支払われるような」受現分 < maksaa/periä「徴収する」/kirjo「スペクトル、広がり、多彩さ」< kirja/riippumatta「～に依存せず、～にかかわらず」(+[出])/perhe-suhteista「家族関係に」[複出]< -suhde/aiemmasta「以前の」[出]< aiempi < aika

●フィンランド語理解のための訳例

最低限所得保障を|あるいは|市民給付を|提案されている|道具として|分けるための|集中した|富を。最低限所得保障は|である|条件なしで|すべての|社会の|メンバーへ|支払われるような|所得、|それを|できない|徴収する|もとへ。さまざまな|最低限所得保障モデルの|多彩さは|大きい、|しかし|考え方は|である|すべて<のモデル>において|同じ:|全員が|得る|所得を|<次のことに>[かかわらず|たとえば|家族関係に、|以前の|仕事]|あるいは|暮らし方に]。

◎意訳

<一部の人々に>集中した富を分配する手段として、最低限所得保障、あるいは市民給付が提案されてきている。最低限所得保障とは社会のすべての成員に対して条件なく支払われる所得であり、その返済を求めることはできない。さまざまな最低限所得保障のモデルは多岐に及んでいるが、基本的な考え方はすべてにおいて同じである:つまり、たとえば家族構成や前職、あるいは生活形態にかかわらず、すべての人が手に入れられる所得である。

【34】「最低限所得保障(ベーシックインカム)」は文化を変容させる

Riittävän perustulon tarjoama taloudellinen turva mahdollistaisi kohtuuden kaikille. Se voisi edistää kestävämpien elämäntapojen kehittymistä ja vahvistaa kulttuurista muutosta suuntaan, jossa materiaalisen kulutuksen kasvattamisen sijaan tavoitellaan esimerkiksi sosiaaliin suhteisiin liittyviä asioita.³⁷

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

37 Perkiö & Kajanoja (2015)

Perkiö, J. & J. Kajanoja (2015): Perustulo ja uusi työllisyyspolitiikka. Teoksessa ”Talouden uudet muodot”, Jakonen M. & T. Silvasti (toim.). Helsinki.

■語句・文法

tarjoama「提供するような」動分 < tarjota / mahdollistaisi「可能にするだろう」[条]単 3 現 < mahdollistaa < mahdollinen / kohtuuden「妥当性を、公正さを」[属対] < kohtuus / voisi「できるだろう」[条]単 3 現 < voida / kestävämpien「より持続可能な」[複属] < kestävämpi 比 < kestävä 能現分 < kestää / kehittymistä「発展することを」[分] < kehittyminen 動名 < kehittyä / suuntaan「方向へ」[入] < suunta / kasvattamisen「成長させることの、拡大させることの」[属] < kasvattaminen 動名 < kasvattaa < kasvaa / sijaan「~に代わって」[入] < sija / tavoitellaan「追求される」受現 < tavoitella < tavoittaa / sosiaaliin suhteisiin「社会的関係へ」[複入] < sosiaalinen suhde / liittyviä「結びつくような、関係するような」[複分] < liittyvä 能現分 < liittyä

●フィンランド語理解のための訳例

十分な|最低限所得保障の|提供する|経済的な|安全は|可能にするだろう|公正さを|すべての人へ。それは|できるだろう|促進する|より持続可能な|暮らし方の|発展することを|そして|強める

〈ことができるだろう〉|文化的な|変化を|[方向へ、|そこで|物質的な|消費の|拡大させることの|代わって|追及される|たとえば|社会的な|関係に|結びつくような|事柄を]。

◎意訳

十分な最低限所得保証が提供してくれる経済的安定は、すべての人に対して公正さを可能にしてくれるだろう。それは、より持続可能な暮らし方が発展することを促進することができるだろうし、物質的な消費を拡大させる代わりに、たとえば社会的な関係に結びつくような事柄を追求するような方向へと文化が変化することを強化してくれるだろう。

【35】「最低限所得保障（ベーシックインカム）」は社会構造を変容させる

Useat ajattelijat ovat hahmotelleet perustuloa myös osana yhteiskunnan ekologista rakennemuutosta². Rakennemuutos kohti ekologisesti kestäväää yhteiskuntaa edellyttää hyvinvointivaltion tavoitteenasettelun muutosta. Tämä tarkoittaa kriittistä suhtautumista etenkin talouskasvun ja perinteisesti ymmärretyn täystyöllisyyden tavoitteisiin.

◇原注（文中で言及されている参考文献など）

2. Ks. esim. Andersson, Jan Otto (2012): ”Perustulo ja kohtuutalous – radikaali yhdistelmä” teoksessa Perkiö, Johanna & Suopanki, Kaisu (toim.) *Perustulon aika*. Helsinki: Into; Fitzpatrick, Tony (2009): *Basic Income, Post-Productivism and Liberalism. Basic Income Studies Vol 4 Issue 2*; Fitzpatrick, Tony (2013): *Ecologism and Basic Income*, teoksessa Widerquist K., Noguera J. A., Vanderborcht Y. ja De Wispelaere J. (toim.) *Basic Income: An Anthology of Contemporary Research*. Wiley-Blackwell, Chichester; Goodin Robert E. (2013): *A Post-productivist Welfare Regime*, teosessa Widerquist K., Noguera J. A., Vanderborcht Y. ja De Wispelaere J. (toim.) *Basic Income: An Anthology of Contemporary Research*. Wiley-Blackwell, Chichester; Koch, Max (2013) *Welfare after Growth: Theoretical Discussion and Policy Implications. International Journal of Social Quality* 3(1), 4-20.

■語句・文法

hahmotella「描き出す」< hahmottaa < hahmo / rakenne-muutosta「構造変化の」[分]< -muutos（この分格は前にある osa「部分、一部」という単語と結びついて「~の」という働きをしています） / hyvin-vointi-valtion「福祉国家の」[属]< -valtio / tavoitteen-asettelun「目標設定の」[属]< -asettelu < asetella < asettaa / suhtautumista「向き合うことを、対することを」[分]< suhtautuminen 動名 < suhtautua / etenkin「とくに」 / perinteisesti「伝統的に」[副]< perinteinen < perinne < periä / ymmärretyn「理解されたような」[属]< ymmärretty 受過分 < ymmärtää / täys-työllisyyden「完全雇用の」[属]< -työllisyys / tavoitteisiin「目標へ」

●フィンランド語理解のための訳例

多くの|思想家たちは|描き出してきた|最低限所得保障を|また|[一部として|社会の|生態的な|構造変化の]。構造変化は|〈次へ〉[向けて|生態的に|持続可能な|社会]|前提とする|福祉国

家の|目標設定の|変化を。これは|意味する|[批判的な|向き合うことを|とくに|経済成長の|そして|伝統的に|理解されたような|完全雇用の|目標へ]。

◎意訳

多くの思想家たちは最低限所得保障を、社会の構造が環境に配慮する方向へ変化することの一部として描き出してきた。生態的に持続可能な社会へ向けての構造変化は、福祉国家が目標設定を変化させることを前提とする。これは、とくに経済成長と従来理解されてきたような完全雇用という目標に対して批判的に向き合うことを意味する。

【36】「最低限所得保障(ベーシックインカム)」は福祉・厚生を定義しなおす

Perustulolla ja sitä tukevilla järjestelmillä voidaan tukea myös työntekoa ja osallistumista yhteiskunnan toimintoihin laajemmin määriteltynä kuin työmarkkinoiden kautta. Perustuloon pohjaava uusi tulon jakojärjestelmä mahdollistaa hyvinvoinnin määrittelyn painopisteen siirtämisen muihin kuin materiaaliin asioihin, kuten ihmisten omien kykyjen ja taitojen kehittämiseen sekä henkilökohtaisen autonomian ja yhteiskunnallisen osallistumisen lisäämisen.

■語句・文法

tukevilla「支えるような」[複接]< tukeva 能現分 < tukea/järjestelmillä「システムにより、体制により」[複接]< järjestelmä/osallistumista「参加することを、関与することを」[分]< osallistuminen 動名 < osallistua < osallinen < osa/laajemmin「より広く」[副]比 < laaja/määriteltynä「定義されたものとして」[様]< määritetty 受過分 < määrittellä/pohjaava「もとづくような」能現分 < pohjata = pohjautua < pohja/jako-järjestelmä「分配システム」(jako < jakaa) /määrittelyn「定義の」[属]< määrittely < määrittellä/paino-pisteen「重点の」[属]< -piste/siirtämisen「移すことを」[属対]< siirtäminen 動名 < siirtää/muihin「他へ」[複入]< muu/materiaaliin asioihin「物質的な事柄へ」[複入]< materiaallinen asia/kykyjen「能力の」[複属]< kyky/taitojen「技能の」[複属]< taito < taitaa/kehittämiseen「発展させることへ、開発することへ」< kehittäminen 動名 < kehittää/henkilö-kohtaisen「個人的な」[属]< -kohtainen/autonomian「自律の」[属]< autonomia/osallistumisen「参加することの、関与することの」[属]< osallistuminen 動名 < osallistua/lisäämiseen「増やすことへ」[入]< lisäminen 動名 < lisätä

●フィンランド語理解のための訳例

最低限所得保障により|そして|それを|支えるような|システムにより|できる|支える|また|働くことを|そして|[参加することを|社会の|活動へ]|より広く|定義されたものとして|<次>[よりも|労働市場の|通じて]。最低限所得保障に|もとづくような|新しい|所得の|分配システムは|可能にする|福祉・厚生|の|定義の|重点の|移ることを|他へ|<次>[以外の|物質的な|事柄へ]、<次の>[ような|人々の|自身の|能力の|そして|技能の|開発することへ|さらに|個人的な|自律の|そして|社会的な|参加することの|増やすことへ]。

◎意訳

最低限所得保障や、それを支援するようなシステムによって、労働市場を通して定義されるよりも広い意味での働くことや社会活動へ参加することを支援することになる。最低限所得保障にもとづく新しい所得の分配システムが福祉・厚生を定義する際には、たとえば自分自身の能力や技能を高めること、あるいは個人の自律性や社会参加を増進させることといった非物質的な事柄へ重点を移すことが可能になるだろう。

★補足

最低限所得保障という新しい再分配システムにより、私たちが福祉・厚生、あるいは幸福というものを、これまでとは異なる視点で考えることができるようになるかもしれません。一言でいえば「消費」のための「労働」が生活の中心的地位を占めるという状況から、私たちは自由になれるのかもしれませんが。言い換えれば、最低限所得保障によって、私たちの選択の自由が広がる可能性があるということです。

【37】「選択の自由」は「持続可能性」へつながる

Jan Otto Andersson näkee, että lisääntyvä valinnanvapaus mahdollistaisi kestävämpien (vähemmän konsumerististen) elämäntapojen kehittymisen ja leviämisen nykyistä laajemmalle.

■語句・文法

Jan Otto Andersson は 1943 年生まれのフィンランドの国際経済学者 / lisääntyvä 「増えるような」 能現分 < lisääntyä < lisätä / valinnan-vapaus 「選択の自由は」 (valinnan [属] < valinta < valita, vapaus < vapaa) / mahdollistaisi 「可能にするだろう」 [条] 単 3 現 < mahdollistaa / kestävämpien 「より持続可能な」 [複属] < kestävämpi 比 < kestävä 能現分 < kestää / vähemmän 「より少なく」 比 < vähän / konsumerististen 「消費主義的な」 [複属] < konsumeristinen / kehittymisen 「発展することを」 [属対] < kehittyminen 動名 < kehittyä / leviämisen 「広がることを」 [属対] < leviäminen 動名 < levitä / nykyistä 「現在よりも」 [分] < nykyinen (この分格は次に出てくる比較級と結びつき比較対象を表します) / laajemmalle 「より広く [向] < laajempi 比 < laaja

●フィンランド語理解のための訳例

Jan Otto Andersson は | 見る、| < 次の > [ことを | 増えるような | 選択の自由は | 可能にするだろう | より持続可能な | (より少なく | 消費主義的な) | 暮らし方の | 発展することを | そして | 広がることを | 現在よりも | より広く。

◎意訳

Jan Otto Andersson は、< 最低限所得保障によって > 選択の自由が増えることにより、より持続可能な (つまり、より消費主義的でない) 暮らし方というものが発展し、現在よりも広範に普及することが可能になるだろうと考えている。

【38】「最低限所得保障（ベーシックインカム）」は北欧福祉国家を次の段階へ

Myös pohjoismainen hyvinvointivaltio on merkinnyt askelta tähän suuntaan. Pohjoismaissa on enemmän vapaaehtoistoimintaa ja ihmisten luottamus toisiinsa on korkeampi kuin niukemman sosiaalipolitiikan maissa¹⁸. Perustulo voisi olla keskeinen uudistus hyvinvointivaltion seuraavan vaiheen rakentamisessa.

◇原注（文中で言及されている参考文献など）

18. Hagfors, Robert, Kajanoja, Jouko & Komu, Merja (2014): The Virtuous Circle of the Welfare State Revisited. Working papers 54/2014. Helsinki: Kela Research Department.

■ 語句・文法

merkitä askelta「一步を記す」(askelta [分] < askel) / tähän suuntaan「この方向へ」[入] < tämä suunta (ここでの「この方向」とは「(最低限所得保障が経済的安定をもたらすおかげで)物質的な消費を追い求めることに代わって、社会的関係の構築や自らの能力を向上させることを追求するようになる」といったことをさしています。) / toisiinsa「おたがいへ」[複入]+ 複 3 所接 < toinen / niukemman「より乏しい」[属] < niukempi 比 < niukka / uudistus「改革」< uudistaa < uusi / seuraavan「次の」[属] < seuraava 能現分 < seurata / vaiheen「段階の」[属] < vaihe / rakentamisessa「建設することにおいて」[内] < rakentaminen 動名 < rakentaa

● フィンランド語理解のための訳例

また|北欧諸国の|福祉国家は|記している|一步を|この|方向へ。北欧諸国において|ある|より多く|ボランティア活動が|そして|人々の|信頼は|おたがいへ|である|より高い|<次>[よりも|より乏しい|社会政策の|国々において]。最低限所得保障は|ありうるだろう|である|中心的な|革新|福祉国家の|次の|段階の|建設することにおいて。

◎ 意訳

北欧の福祉国家もまた、この方向への一步を記している。社会政策の不十分な国々と比べれば、北欧諸国においてはボランティア活動がより盛んであり、人々のたがいに対する信頼も高い。最低限所得保証は、福祉国家の次の段階を構築するうえで中心的な改革となる可能性がある。

【39】日々の議論を制限している多くの神話から自由になることが重要

Kestävässä yhteiskunnassa tavoitteeksi on asetettava ihmisten ja ympäristön hyvinvoinnin monipuolinen kehittäminen. Tämän tavoitteen saavuttaminen edellyttää vapautumista useista tämän hetken päivänpoliittisen keskustelun rajoittavista myyteistä. Siten perustulossa ja työtakuussa ei ole kyse ainoastaan sosiaali- ja työllisyyspolitiikan uusista välineistä, vaan myös uudenlaisen yhteiskunnan rakentamisesta.

■ 語句・文法

tavoitteeksi「目標として、目的として」[変]< tavoite < tavoittaa/on asetettava「設定しなければならない」(asetettava 受現分 < asettaa) / moni-puolinen「多面的な」/ saavuttaminen「達成することは」動名 < saavuttaa < saapua/vapautumista「自由になることを、解放されることを」[分]< vapautuminen 動名 < vapautua < vapaa/päivän-poliittisen「日々の政治の、時事的な政策の」[属]< -poliittinen/ rajoittavista「制限するような」[複出]< rajoittava 能現分 < rajoittaa < raja/myyteistä「神話から」[複出]< myytti / siten「そうすることで、そのようにして」⇒ se / työtakuussa「雇用保証において」[内]< -takuu(「雇用保証」とは「働きたいと思う人に行政が雇用を保証すること」といった意味だと思います) / ainoastaan「ただ、単に」[出]+ 単 3 所接 < ainoa / sosiaali- ja työllisyys-politiikan「社会政策と雇用政策の」[属]< -politiikka / välineistä「道具について」[複出]< väline / uuden-laisen「新しい種類の」[属]< -lainen

● フィンランド語理解のための訳例

持続可能な|社会において|目標として|設定すべきである|人々の|そして|環境の|福祉・厚生 of |多面的な|発展させることを。この|目標の|達成することは|前提とする|[自由になることを|多くの|この|瞬間の|日々の政治の|議論の|制限するような|神話から]。そのため|最低限所得保障において|そして|雇用保証において|ではない|問題は|ただ単に|社会<政策の>|そして|雇用政策の|新しい|道具について、<|そうではなく>|また|新しい種類の|社会の|建設することについて。

◎ 意訳

持続可能な社会においては、人間と環境の福祉・厚生を多面的に発展させることが目標として設定されるべきである。この目標を達成するには、現在の日々の政治的議論を制限しているような多くの神話から自由になることが求められる。そうであれば、最低限所得保障や雇用保証において問題となるのは、ただ単に社会・雇用政策の新たな手段であるということではなく、新しい種類の社会を構築するということなのである。

【40】「商品化」から「共有化(コモン化)」へ

Vastareaktio uusliberalistiselle tavaramuotoistamiselle (commodification) voisi olla julkisen yhteistäminen (commonification). Tämä tarkoittaisi julkisten varantojen valjastamista vastaamaan paremmin nykytyöläisten tarpeita. Esimerkiksi kaikille yhtäläisesti maksettava riittävä perustulo voisi olla eräänlainen ”kansantalouden commons”.

■ 語句・文法

vasta-reaktio「反動、反発」/ tavara-muotoistamiselle「商品化することへ」[向]< -muotoistaminen 動名 < -muotoistaa < -muotoinen < muoto / voisi「ありうるだろう」[条] 単 3 現 < voida / julkisen「公共財の、公共物の」[属]< julkinen / yhteistäminen「共有化すること、コモン化すること」動名 < yhteistää < yhteinen / tarkoittaisi「意味するだろう」[条] 単 3 現 < tarkoittaa

／julkisten varantojen「公的な備蓄を、公共の資源を、公共の財産を」[複属]<julkinen varanto (varanto < vara)／valjastamista「利用することを」[分]<valjastaminen 動名 <valjastaa < valjas
／vastaamaan「応えるように」MA 不[入]<vastata／paremmin「よりよく」[副]比 <hyvä／yhtäläisesti「平等に、同等に」[副]<yhtäläinen <yksi／maksettava「支払われるような」受現分 <maksaa／eräänläinen「ある種の」<eräs／kansan-talouden「国民経済の」[属]<-talous／common(s)「コモン(ズ)、共」については、資料IV-2の【1】のあとの「★補足」を参照してください。

●フィンランド語理解のための訳例

反動は|新自由主義的な|商品化すること (commodification) へ|ありうるだろう|公共財の|共有化すること (commonification)。これは|意味するだろう|公共の|資源の|利用することを|応えるように|よりよく|現在の労働者たちの|必要性に。たとえば|すべての人へ|平等に|支払われるような|十分な|最低限所得保障は|ありうるだろう|ある種の|「国民経済のコモンズ」。

◎意訳

新自由主義的なく何もかもを>商品化してしまおうとすること(英語では commodification)に対する反発として、公共財を共有化(コモン化)すること(英語では commonification)ということが考えられるだろう。これは、公共財産を現在の労働者たちの必要性によりよく応えるように利用することを意味することになるだろう。たとえば、すべての人に平等に支払われる十分な額の最低限所得保証は、ある種の「国民経済の共有財(コモンズ)」となりうるだろう。

★補足

それでは広告の問題へ移っていきます。広告や宣伝は消費、そして成長とは切り離すことのできない重要な問題です。

【41】広告は消費文化を維持し、物質主義的な暮らし方を促進する

Ylikulutuksen aiheuttamiin ympäristöongelmiin voidaan puuttua rakenteellisin keinoin mainontaa rajoittamalla sen sijaan, että syyllistetään yksittäisiä kuluttajia. Mainoksia kritisoidaan, sillä ne luovat totuudenvastaisia mielikuvia, rakentavat keinoitekoisia tarpeita ja rohkaisevat kuluttamaan lisää. Ne pitävät yllä kulutuskulttuuria ja ruokkivat materialistista elämäntapaa.

■語句・文法

yli-kulutuksen「可能消費の」[属]<-kulutus／aiheuttamiin「引き起こすような」[複入]<aiheuttama 動分 <aiheuttaa／puuttua「介入する」／rakenteellisin keinoin「構造的な手段によって」[複具]<rakenteellinen keino／mainontaa「広告を、宣伝を」[分]<mainonta／rajoittamalla「制限することにより」MA 不[接]<rajoittaa／sen sijaan, että ~「~だということに代わって、~だということの代わりに」／syyllistetään「告発する、非難する、責める」受現 <syyllittää <syyllinen <syy／yksittäisiä kuluttajia「個々の消費者を」[複分]<yksittäinen kuluttaja／mainoksia「広告を、宣伝を」[複分]<mainos／kritisoidaan「批判される」受現 <kritisoida／

totuuden-vastaisia「事実に反するような」[複分]<-vastainen (totuuden [属]< totuus) / mielikuvia「心象を、イメージを」[複分]<-kuva / keino-tekoisia「人工的な、人為的な」[複分]<-tekoinen < teko < tehdä / rohkaista「勇気づける、うながす」< rohkea / kuluttamaan「消費するように」MA 不[入]< kuluttaa / pitää yllä「維持する」= yllä-pitää / kulutus-kulttuuria「消費文化を」[分]<-kulttuuri / ruokkia「食べさせる、大きくさせる」⇒ ruoka

●フィンランド語理解のための訳例

過剰消費の|引き起こすような|環境問題へ|できる|介入する|構造的な|手段により|広告を|制限することにより|〈次の〉[ことに代わって、|非難する|個々の|消費者を]。広告を|批判される、|というの|それらは|作る|事実に反するような|心証を、|構築する|人為的な|必要性を|そして|勇気づける|消費するように|さらに。それらは|維持する|消費文化を|そして|食べさせる|物質主義的な|暮らし方に。

◎意訳

過剰消費が原因となる環境問題に対しては、個々の消費者を非難する代わりに広告を制限するという構造的な手段によって介入することができる。広告は、それが事実に反するイメージを作り出し、人為的な必要性を生み出し、さらなる消費をするようにうながすものであるために、批判される。広告は消費文化を維持し、物質主義的な暮らし方を促進するのである。

【42】広告とは、まだもっていないものを欲しいと思わせるためのもの

Kuten Latouche on todennut, ”mainonta saa meidät haluamaan sitä, mitä meillä ei vielä ole, ja vie meiltä ilon siitä, minkä jo omistamme”. Suomessa rajoitetaan jo muun muassa lapsiin kohdistuvaa ja alkoholiin liittyvää mainontaa. Uusia rajoitteita voisi tehdä myös niin valtakunnallisesti kuin kuntatasollakin. Esimerkiksi Grenoblen kaupunki Ranskassa päätti vuonna 2014 kieltää kadunvarsimainokset ja istuttaa niiden tilalle puita⁵⁵. Vain järjestöjen ilmoitukset sallitaan.

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

55 The Telegraph 24.11.2014: ”Grenoble to replace street advertising with trees and community spaces”, www.telegraph.co.uk/news/worldnews/europe/france/11250670/Grenoble-to-replace-street-advertising-with-trees-and-community-spaces.htm

■語句・文法

Latouche「ラトウーシュ」(資料IV-8に出てきましたが、Serge Latouche「セルジュ・ラトウーシュ」は1940年生まれのフランスの経済哲学者・思想家であり、脱成長思想の立役者) / on todennut「言っている」完 < todeta < tosi / saa meidät haluamaan「我々が望むようにさせる」(saada と MA 不[入]が結びつくと「うまいこと~させる、~させることができる」といった意味を表します) / sitä, mitä meillä ei vielä ole「我々にまだないものを、我々がまだもっていないものを」(mitä [分]< mikä [関代]) / vie meiltä ilon「我々から喜びを奪う」 / siitä, minkä jo omistamme「我々がすでに所有して

いるものについて」(siitä [出] < se, minkä [属対] < mikä [関代]) / rajoitetaan 「制限される」受現 < rajoittaa / muun muassa 「なかでも、とりわけ」 / lapsiin kohdistuvaa 「子どもたちへ向けられるような」 (lapsiin [複入] < lapsi, kohdistuvaa [分] < kohdistuva 能現分 < kohdistua) / alkoholiin liittyvää 「アルコールに関係するような」 (alkoholiin [入] < alkoholi, liittyvää [分] < liittyvä 能現分 < liittyä) / uusia rajoitteita 「新たな制限を」 [複分] < uusi rajoite (rajoite < rajoittaa) / niin ~ kuin ... 「～も...も」 / valta-kunnallisesti 「国家レベルで」 [副] < -kunnallinen < -kunta / kunta-tasolla-kin 「自治体レベルにおいても」 [接] + -kin < -taso / Grenoblen 「グルノーブルの」 < Grenoble (フランスの都市) / kadun-varsi-mainokset 「街頭広告を」 [複主対] < -mainos / istuttaa 「植える」 < istua / tilalle 「～の場所へ、～の代わりに」 [向] < tila / järjestöjen 「組織の」 [複属] < järjestö < järjestää / ilmoitukset 「告知、公告」 [複主対] < ilmoitus < ilmoittaa / sallitaan 「許される」受現 < sallia

●フィンランド語理解のための訳例

〈次の〉[ように|ラトゥーシュが|言っている]、|「広告は|させることができる|我々が|望むように|我々にまだないものを、|そして|奪う|我々から|喜びを|我々がすでに所有するものについて」。フィンランドでは|制限されている|すでに|なかでも|子どもへ|向けられるような|そして|アルコールに|関係するような|広告を。新しい|制限を|できるだろう|作る|また|国家レベルにおいても|自治体レベルにおいても。たとえば|グルノーブルの|市は|フランスで|決めた|2014年に|禁止する|街頭広告を|そして|植える|それらの|場所へ|木を。ただ|組織の|告知を|許される。

◎意訳

ラトゥーシュが述べているように、「広告はまだもたないものを欲しいと我々に思わせ、すでにもっているものについての喜びを我々から奪ってしまう」。フィンランドでは、とくに子どもたちに向けられるような広告とアルコールに関する広告はすでに制限されている。国家レベルにおいても自治体レベルにおいても、新たな制限を設けることができるだろう。たとえば、フランスのグルノーブル市は街頭広告を禁止し、その代わりに植樹をすることを2014年に決定している。〈そして〉組織の告知のみが許されている。

★補足

テレビを見ていると、いわゆるコマーシャルという広告・宣伝だけではなく、番組そのものも実質的に広告・宣伝で満ち溢れていると感じます。その際に気にかかる言葉が「お得」「リーズナブル」、そして「コスパ」などです。これらの言葉はすべて、当たり前のように肯定的な意味で使われます。しかし、誰かにとっての「お得」は別の誰かに「損」を強いているのではないか、何かが「安い」ことが果たして合理的なこと、つまり「リーズナブル」なことなのか、そして「コスパ」が「安い」ということと同義になってしまっていることは果たして正当なことなのか、「コスパ」などということはもっと長い視点で判断されるべきことではないのか、などと考えてしまいます。いずれにしても、日常生活が広告・宣伝で埋め尽くされていることに気づけば、現在の社会は本当に「消費する」ということで満たされていると感じます。

【43】個々人の消費選択だけでは問題は解決できない

Tutkimukset osoittavat, että suomalaisessa yhteiskunnassa luonnonvarojen kulutusta ei voida vähentää kestäväälle tasolle pelkästään yksilöiden kulutusvalinnoilla. Materiaalijälkiimme vaikuttavat ennen kaikkea rakenteelliset tekijät: se, miten ruokaa ja lämmityksessä tarvittavaa energiaa tuotetaan tai esimerkiksi se, miten liikenne- tai kaavoituspolitiikkaa harjoitetaan.

■ 語句・文法

pelkästään「ただ単に」[出]+ 単 3 所接 < pelkkä/yksilöiden「個人の」[複属]< yksilö < yksi/kulutus-valinnoilla「消費選択により」[複接]< -valinta < valita/materiaali-jälkiimme「我々のマテリアル・フットプリントへ、我々が消費する資源量へ」[入]+ 複 1 所接 < -jälki (正しくは materiaali-jalan-jälki ではないかと思えます。jalan-jälki「フットプリント、足跡」については『フィンランド語の世界を読む』161-162 ページなどでも触れましたが、materiaali-jalan-jälki とは一言でいえば「消費した資源量」のことを意味するようです。) / ennen kaikkea「何よりも」(kaikkea [分] < kaikki) / tekijät「要因が」[複主] < tekijä < tehdä / se, miten ~「どのように~するのかということが」 / lämmityksessä「暖房において」[内] < lämmitys < lämmitää ⇒ lämmin / tarvittavaa「必要とされるような」[分] < tarvittava 受現分 < tarvita / tuotetaan「生産される」受現 < tuottaa / liikenne- ja kaavoitus-politiikkaa「運輸<政策>、そして都市計画政策を」(kaavoitus < kaavoittaa < kaava) / harjoitetaan「実施される」受現 < harjoittaa

● フィンランド語理解のための訳例

研究は|示す、|〈次の〉[ことを|フィンランドの|社会において|天然資源の|消費を|できない|減らす|持続可能な|水準へ|ただ単に|個々人の|消費選択によって]。我々が消費する資源量へ|影響する|何よりも|構造的な|要因が:|どのように|食料を|そして|暖房において|必要とされる|エネルギーを|生産される|あるいは|たとえば|どのように|運輸<政策を>|あるいは|都市計画政策を|実施される。

◎ 意訳

フィンランド社会においては、ただ単に個々人の消費に関する選択によって天然資源の消費を減少させることはできないということを〈さまざまに〉研究は示している。我々が消費する資源の量に影響するのは、何よりも構造的な要因なのである:つまり、食料や暖房のために必要とされるエネルギーをどのように生産するのかということや、あるいは、たとえば運輸政策や都市計画政策をどのように進めていくのかといったこと〈などの構造的な要因が消費される資源の量を決定するのである〉。

★ 補足

SDGs を実践しているとするテレビ局が、自局のアナウンサーに「私は SDGs のために、紙の本の代わりにタブレットを使って電子書籍を読むようにしています」と言わせている場面に出くわしました (実は私はテレビが大好きで、一日中のように見えています)。本当にびっくりしました。まず、「持続可

能な社会」への取り組みを、このような個人の責任に還元してしまおうとする姿勢に疑問を感じます。そして、もう一つ驚くのは「紙の本」よりも「電子書籍」の方が環境にとってよいと考えていることです。「本は紙で読みたい」という時代遅れで年寄りの私からすれば、こんな「ふざけた」話はありません。

さらに笑ってしまったのは、先ほどのアナウンサーの告知が流れた同じ番組の中で、「番組のコメンテーターの一人である作家が書店を開くので、よろしくお願いまーす」と番組を挙げて宣伝していたことです(もちろん販売しているのは「紙の本」です)。これほど節操のないことってあるでしょうか。

以上、年寄りのたわごとです。

【44】それでも、人々の行動は社会の構造を変える可能性がある

Kestävien materiaalijalanjälkien saavuttaminen edellyttää siis muutoksia infrastruktuurissa, tuotantotavoissa ja yhteiskunnallisissa palveluissa.⁵⁰ Siitä huolimatta kohtuullisen elämäntavan tavoittelu ei ole turhaa, eikä sen merkitystä pidä väheksyä. Rakenteet voivat muokata ja ohjata ihmisen toimintaa, mutta yhtäällä ihmisten toiminnan avulla rakenteita voidaan muuttaa⁵¹.

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

50 Hirvilammi et al. (2014)

51 Jakonen & Silvasti (2015), s. 287

Hirvilammi, T., Laakso, S. & M. Lettenmeier (2014): Kohtuuden rajat? Yksin asuvien perusturvan saajien elintaso ja materiaalijalanjälki. Helsinki: Kela, Sosiaali- ja terveysturvan tutkimuksia 132.
Jakonen, M. & T. Silvasti (toim.) (2015): Talouden uudet muodot. Helsinki, Into Kustannus

■ 語句・文法

saavuttaminen「達成すること」動名 < saavuttaa < saapua / infrastruktuurissa「社会基盤において、インフラにおいて」[内] < infrastruktuuri / tuotanto-tavoissa「生産方法において」[複内] < -tapa / siitä huolimatta「それにもかかわらず」(huolimatta MA 不[欠]) / kohtuullisen「妥当な、ほどほどの」[属] < kohtuullinen / tavoittelu「追求」< tavoitella / turhaa「無駄な」[分] < turha / väheksyä「過小評価する」< vähä / muokata「加工する、形成する」 / ohjata「導く」 / yhtäältä「一方で」⇒ yksi

● フィンランド語理解のための訳例

持続可能な|資源の消費量の|達成することは|前提とする|つまり|変化を|社会基盤における、|生産方法における|そして|社会的な|サービスにおける。それに|かかわらず|妥当な|生活方法の|追及は|ではない|無駄な、|そして~でない|その|意味を|すべきだ|過小評価する。構造は|できる|形成する|そして|導く|人々の|行動を、|しかし|一方で|人々の|行動の|助けにより|構造を|できる|変える。

◎意訳

つまり、資源の消費量を持続可能なものにするためには、社会基盤、生産方法、そして社会サービスにおける変化を必要とする。そうであるにしても、〈個々人が〉妥当な暮らし方を追求することは無駄ではないし、その重要性を過小評価すべきではない。〈社会の〉構造は人々の行動を形作り導くことができるが、一方で人々の行動により〈社会の〉構造を変えることもできるのである。

【45】脱成長は政治的・文化的想像力を解放する

Degrowth pyrkii vapauttamaan niin poliittisen kuin kulttuurisenkin mielikuvituksen kasvun ja kaupallisen kulutuksen hallinnasta. Teoreettisten työkalujen lisäksi käytännön harjoitukset, joita henkilökohtaisella tasolla voivat olla esimerkiksi vapaaehtoinen hidastaminen ja yksinkertaisuuden tavoittelu (voluntary simplicity), nousevat tärkeään asemaan.

■語句・文法

vapauttamaan「自由にしよう、解放しよう」MA 不[入] < vapauttaa < vapaa / mieli-kuvituksen「想像(力)を」[属対] < -kuvitus < kuvittaa < kuva (niin poliittisen から mieli-kuvituksen まだが vapauttamaan の目的語に相当します) / hallinnasta「支配から、制御から」[出] < hallinta < hallita / teoreettisten työ-kalujen「理論的な道具の、理論的ツールの」[複属] < teoreettinen työ-kalu / harjoitukset「実践が」[複主] < harjoitus < harjoittaa / henkilö-kohtaisella tasolla「個人的なレベルにおいて」[接] < henkilö-kohtainen taso / vapaa-ehtoinen「自発的な、ボランティアの」 / hidastaminen「遅くすること、遅らせること」動名 < hidastaa < hidas / yksin-kertaisuuden「単純さの、簡素であることの、シンプルさの」[属] < -kertaisuus < -kertainen /

●フィンランド語理解のための訳例

脱成長は|試みる|解放しよう|政治的な|そして|文化的な|想像力を|[成長の|そして|商業的な|消費の|支配から]。理論的な|道具の|加えて|現実の|実践が、|それら|個人的な|レベルにおいて|ありうる|たとえば|自発的な|遅くすること|そして|単純さへの|追及|(voluntary simplicity)、|上がる|重要な|地位へ。

◎意訳

脱成長は成長や商業的消費による支配から政治的・文化的想像力を解放しようとする。〈そのためには〉理論的な道具に加え現実の実践が重要なものとなるが、たとえば、自発的に〈生活の〉速度を緩めることや〈生活における〉簡素さを追求すること(英語では voluntary simplicity)などが個人的なレベルにおける実践となりうるものである。

【46】日々の決まりきった行動を打破することが重要

Näissä harjoituksissa on kysymys päivittäisten rutiinien häiritsemisestä²⁶ ja ainutkertaisten sosiaalisten ja materiaalistien kohtaamisten arvonnoususta. Samalla tulevaisuus astuu lähemmäksi: saavutettujen henkilökohtaisten kokemusten myötä on helpompi tehdä tarvittavat poliittiset päätökset, jotka vievät kohti monimuotoista, niukkoja resursseja kunnioittavaa yhteiskuntaa.

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

26. Ibid. Katso edellinen loppuviite.

これは次の文献をさしています。

Koskinen, Seppo (toim.) (2013) Työllisyys, terveys ja hyvinvointi – Paltamon työllistämismallin vaikutusten arviointitutkimus 2009-2013. Hankkeen loppuraportti. Helsinki: Terveiden ja hyvinvoinnin laitos. (<http://urn.fi/URN:ISBN:978-952-245-980-0>).

■ 語句・文法

näissä harjoituksissa 「これらの実践において」 [複内] < tämä harjoitus / päivittäisten rutiinien 「日々の決まりきった行動の、毎日のルーティーン」 [複属] < päivittäinen rutiini / häiritsemisestä 「じゃますることについて、破ることについて」 [出] < häiritseminen 動名 < häiritä / ainutkertaisten sosiaalisten ja materiaalistien kohtaamisten 「一度きりの社会的な、そして物質的な出会い」 [複属] < ainut-kertainen sosiaalinen ja materiaallinen kohtaaminen (kohtaaminen 動名 < kohdata. なお、ここでの materiaallinen とは「実体的な、具体的な」といった意味だと思います) / arvonnoususta 「価値の上昇について」 [出] < -nousu < nousta / lähemmäksi 「より近くへ」 ⇒ lähempänä, lähempää, lähemmäs ⇒ lähellä, läheltä, lähelle) / saavutettujen 「達成されたような」 [複属] < saavutettu 受現分 < saavuttaa / kokemusten myötä 「経験に沿って、経験にともない」 (kokemusten [複属] < kokemus < kokea) / helpompi 「より簡単な」 比 < helppo / tarvittavat 「必要とされるような」 [複主対] < tarvittava 受現分 < tarvita / kohti 「～へ向けて」 (+ [分]) / monimuotoista 「多様な、多彩な」 [分] < -muotoinen < muoto / niukkoja resursseja 「乏しい資源を、希少な資源を」 [複分] < niukka resurssi / kunnioittavaa 「尊重するような、敬意を払うような」 [分] < kunnioittava 能現分 < kunnioittaa < kunnia

● フィンランド語理解のための訳例

これらの | 実践において | である | 問題は | 日々の | 決まりきった行動の | 破ることについて | そして | 一度きりの | 社会的な | そして | 物質的な | 出会いの | 価値上昇について。同時に | 未来は | 踏み入る | もっと近くへ: | 達成されたような | 個人的な | 経験に | ともない | より簡単である | することは | 必要とされるような | 政治的な | 決定を、 | それらは | 引く | < 次 > [へ向けて | 多様な、 | 乏しい | 資源を | 尊重する | ような | 社会]。

◎意訳

これら実践において問題となるのは、日々の決まりきった行動を打ち破ることであり、一度きりの社会的で具体的な出会いというものの価値が高まるということである。同時に未来はより身近なものとなるのである:つまり、個人的な経験を積み重ねるのにもとない、希少資源を尊重するような多様な社会へ向けて導くような政治的決定を下すことが容易になるのである。

★補足

消費を減らすということは、もちろん何かを「あきらめる」ことでしょう。その「あきらめる」ということについて見ていきます。

【47】消費削減を主張しても友達が増えないけれど

Sodalla on erikoisia voimia: maaliskuussa nähtiin sellainenkin ihme, että maailman energijärjestö IEA ehdotti nopeusrajoitusten laskemista öljyn säästämiseksi. Se pienentäisi bensalaskuja ja päästöjä välittömästi. Muutoin kulutuksen vähentämisestä puhutaan yhä verraten vähän. Siitä muistuttelevalla puheella ei välttämättä saa lisää kavereita, eikä sillä taida kovin helposti saada äänestäjiäkään. Se pitäisi kuitenkin uskaltaa sanoa ääneen: oli ympäristökriisin ratkaisu millainen tahansa, se pitää sisällään myös luopumista.

■語句・文法

sodalla「戦争に」[接]< sota(この記事は2022年7月28日のものですが、ここでの「戦争」とはウクライナ戦争のことをさしていると思われます)／erikoisia「特別な、特殊な、奇妙な」[複分]< erikoinen／nähtiin「見られた」受過 < nähdä／sellainenkin ihme, että ~「~だというような不思議・奇跡をも」／maa-ilman energia-järjestö「国際エネルギー機関」(kansain-välinen energia-järjestöともいいます。なお、IEAは英語名 International Energy Agencyの頭文字です)／nopeusrajoitusten「速度制限の」[複属]< -rajoitus < rajoittaa < raja／laskemista「下げることを」[分]< laskeminen 動名 < laskea／säästämiseksi「節約するために」[変]< säästäminen < säästää／pienentäisi「小さくするだろう」[条]単3現 < pienentää < pieni／bensa-laskuja「ガソリン代を」[複分]< -lasku < laskea／päästöjä「排出を」[複分]< päästö < päästää ⇒ päästä／välittömästi「ただちに、直接的に」[副]< välitön < väli／muutoin「それ以外では、それを除けば」= muuten／vähentämisestä「少なくすることについて」[出]< vähentäminen 動名 < vähentää < vähä／verraten「比較的」e 不[具]< verrata／muistuttelevalla「思い出させるような、指摘するような」[接]< muistutteleva 能現分 < muistutella < muistuttaa < muistua／välttämättä「必ず(しも)」MA 不[欠]< välttää／sillä「それにより」[接]< se(このseは「消費を減らすことについて思い出させるような話」のことをさしています)／ei taida「~ではないようだ」単3現否 < taitaa／kovin「あまり(～ない)」[副]< kova／helposti「容易に」[副]< helppo／äänestäjiäkään「投票者・有権者たちをも」[複分]+ 単3所接 + -kään < äänestäjä < äänestää < ääni／se「それを」(この語は次に来る pitäisi uskaltaa sanoa の目的語ですが、pitää など「しなければならない」という意味の動詞の対

格目的語は主格になります) / pitäisi 「しなければならないだろう」 [条] 単 3 現 < pitää / uskaltaa 「～する勇気がある、思い切って～する」 / ääneen 「声に出して」 [入] < ääni / oli ympäristö-kriisin ratkaisu millainen tahansa 「環境危機の解決がどのようなものであろうと」 (この oli のように過去形の動詞が節の頭に置かれ tahansa = hyvänsä 「～でも」と結びつく表現がありますが、このような表現は「たとえ～でも」といった意味を表します。) / pitää sisällään 「含む」 (sisällään [接] + 単 3 所接 < sisä-) / luopumista 「あきらめることを、捨てることを」 [分] < luopuminen 動名 < luopua

●フィンランド語理解のための訳例

戦争に|ある|特別な|力が:|3 月に|見られた|<次の>ような|不思議をも、|[~だという|世界の|エネルギー機関|IEA は|提案した|速度制限の|下げることを|石油の|節約するために]。それは|小さくするだろう|ガソリン代を|そして|排出を|ただちに。それを除けば|消費の|減らすことについて|話される|依然として|比較的|少なく。それについて|思い出させるような|話により|必ずしも|得られない|さらに|友達を、|そして~ではない|それにより|ようだ|あまり|容易に|得る|投票者たちをも。それを|しなければならないだろう|しかしながら|思い切ってする|いう|声に出して:|[あろうと|環境危機の|解決が|どのようなもの|でも]、|それは|保つ|自らの中に|また|あきらめることを。

◎意訳

戦争というものは奇妙な力をもっているものだ:<というの>3 月に国際エネルギー機関が、石油を節約するために速度制限を引き下げる提案をしたという奇跡のようななことも起こっているのである。そうすればガソリン代も排出量もただちに削減することになるだろうということである。このようなことを除けば、消費を減らすということについて語られることは依然として比較的まれである。消費を減らすことについて指摘するような話をしても必ずしも友達が増えることはないし、あまり簡単に有権者を得ることもできないようだ。しかし、そのことはあえて大きな声でいわなければならない:<なぜなら>環境危機を解決する方法がいかなるものであろうとも、そこには<何かを>あきらめるということが含まれている<からだ>。

【48】「脱成長」はたしかに「あきらめる」ということをともなうかもしれない

Varmasti joudutaan joistain saavutetuista eduista luopumaan degrowth-mallissa. Mutta väitän, että ehkä saadaan enemmän hyviä asioita siihen tilalle: rauhallisempaa elämäntahtia, parhaimmillaan vähemmän työtä ja enemmän vapaa-aikaa.

■語句・文法

joudutaan 「することになる、せざるをえくなる」受現 < joutua (+ [入]・[接] ~MA 不 [入]) / joistakin saavutetuista eduista 「何らかの手に入れた利益から」 [複出] < jokin saavutettu etu (saavutettu 受過分 < saavuttaa) / luopumaan 「あきらめる、捨てる」 MA 不 [入] < luopua (+ [出]) / väitän 「私は主張する」 単 1 現 < väittää / siihen tilalle 「その代わりに」 / rauhallisempaa 「より穏やかな」 [分] < rauhallisempi 比 < rauhallinen < rauha / elämän-tahtia 「生活のリズムを、生活のペースを」 [分] < -tahti / parhaimmillaan 「最高の状態で、最高の場合に」 [複接] + 単 3 所

接 < parhain (= paras) 最 < hyvä/vähemmän「より少なく」比 < vähän

●フィンランド語理解のための訳例

たしかに|せざるをえなくなる|何らかの|手に入れられた|利益から|あきらめる|「脱成長」モデルにおいて。しかし|私は主張する|〈次の〉[ことを|おそらく|得られる|より多く|よい|事柄を|そこへ|代わりに:]より穏やかな|生活リズムを、|最善の場合には|より少なく|仕事を|そして|より多く|自由時間を。

◎意識

「脱成長」モデルにおいてはたしかに、これまで手に入れてきた何らかの利益をあきらめざるをえないだろう。しかし、それらに代わってより多くのよいものをおそらく手に入れられるだろうと私は主張する。つまり、より穏やかな生活リズムであり、最善の場合にはより少ない労働とより多くの自由な時間を手に入れられるだろう。

★補足

「脱成長」を唱える多くの人からすれば、脱成長をめざすことは「何かをあきらめる」というよりも「何かを得られる」ことなのだろうと思います。ここでの問題は、私たちが何を求めるのか、何が自分たちに幸福感を抱かせてくれると私たちが考えるのか、ということだと思っています。毎年のように洋服を買い替えることが幸福なのか、それとも同じ洋服を何年間も着続けていても、それで使わずにすんだお金で、たとえば役に立ちもしないフィンランド語を勉強することに満足感を抱くのか、あるいは携帯電話の機種変更をするのを少し先延ばしして、被災地や戦争に巻き込まれている国へ寄付をすることに意義を見出すのか。ここでも問題ややはり「文化」の問題です。何を重要だと考え行動し、日々を暮らすのかという「文化」が変わる必要があります。

【49】「脱成長」は多彩で多様であることを出発点とする

Degrowth-talous ei kuitenkaan pyri korvaamaan kasvutaloutta tarjoamalla kaikenkattavaa uutta teoriaa ja maailmanlaajuista uutta yhteiskuntajärjestelmää. Päinvastoin, degrowth-yhteiskunta voi järjestyä lukuisilla eri tavoilla, riippuen paikallista paikallisista olosuhteista ja paikallisesta kulttuurista. Moniäänisyys ja monimuotoisuus ovat ajattelun keskeisiä lähtökohtia.

■語句・文法

ei pyri「試みない、しようしない」単₃ 現否 < pyrkiä (+[入]~ MA 不[入]) / korvaamaan「取って代わる、取り替える、置き換える」MA 不[入] < korvata / kasvu-taloutta「成長くを至上命題とするような」経済に」 / tarjoamalla「提供することにより」MA 不[接] < tarjota / kaiken-kattavaa「包括的な(すべてを覆うような)」[分] < -kattava 能現分 < kattaa / maa-ilman-laajuista「世界規模の」[分] < -laajuinen < laajuus < laaja / päin-vastoin「逆に」 / järjestyä「組織される、組織化する」 < järjestää / lukuisilla「数多くの」[複接] < lukuinen < luku < lukea / riippuen「~によって、~に応じて」 e 不[具] < riippua (+[出]) / olo-suhteista「状況に」[複出] < -suhde (paikallista olo-suhteista

となっていますが、おそらく paikallisista olo-suhteista の誤りだと思しますので、赤字で修正しておきます) / moni-äänisyys 「多声性、多様な声を含むようこと、多様性、多彩性」 < -ääninen < ääni / moni-muotoisuus 「多様性」 < -muotoinen < muoto (moni-äänisyys は文字通りには「多声であること」を意味しますので、いろいろな人の考えや視点を含むようなことを意味するのだと思います。一方の moni-muotoisuus は「多くの形をもつこと」を意味しますので、何かの結果として生まれるものが多様・多彩であることではないかと思えます。その意味で moni-äänisyys は「物事を進める過程における多様性」という意味合いを、moni-muotoisuus は「物事が進められた結果における多様性」という意味合いをもつのだろうか、私は勝手に考えてはいます。ただし、的外れな解釈かもしれませんので。)

●フィンランド語理解のための訳例

脱成長経済は|ではない|しかしながら|しようとする|取って代わる|成長経済に|提供することにより|包括的な|新しい|理論を|そして|世界規模の|新しい|社会体制を。逆に、|脱成長社会は|できる|組織される|数多くの|ことなる|方法により、|<次に> [よって|地域の|状況に|そして|地域の|文化に]。多声性は|そして|多様性は|である|<脱成長>思想の|中心的な|出発点。

◎意訳

しかし脱成長経済とは包括的な新しい理論や世界規模の新しい社会体制を提供することで、<現在の>成長<を至上命題とする>経済に取って代わろうとするものではない。それどころか脱成長社会というものは、地域の状況や地域の文化に応じて、数多くのさまざまな方法で成立する可能性がある。多彩であること、そして多様であることは<脱成長という>考え方の重要な出発点となるものである。

★補足

ここでも「多様性」という考え方が鍵になっていることには注意を向けておきたいと思えます。そもそも多様性が存在基盤の一つとなっている地球という惑星において、私たち人類が存在し続けるためには、当然のことながら地球や私たち人類の文化がもつ「多様性」を尊重することは不可欠なはずだと思うのですが。

【50】無力感を抱くのは当然だとしても、我々は変化を成し遂げてきたのである

Isojen kysymysten äärellä voi helposti tuntea voimattomuutta, mutta on tärkeää muistaa, että haasteista huolimatta isotkin muutokset ovat mahdollisia. Historiallisesti tarkasteltuna olemme saaneet aikaan merkittäviä yhteiskunnallisia muutoksia aikaisemminkin. Esimerkiksi orjakaupasta luopumista ja naisten äänioikeutta pidettiin aikoinaan mahdottomuutena. Siitä huolimatta käytännöt levisivät kaikkialle maailmaan.

■語句・文法

äärellä「かたわらで、そばで」[接] < ääri ⇒ ääreltä, äärelle / voimattomuutta 「無力(感)を」[分]

< voimattomuus < voimaton < voima / haasteista huolimatta 「課題にもかかわらず、困難にもかかわらず」 (haasteista [複出] < haaste < haastaa、huolimatta MA 不 [欠] < huolia + [出]) / tarkasteltuna 「点検されると、確認されると」 [様] < tarkasteltu 受過分 < tarkastella < tarkastaa / saada aikaan 「生み出す、引き起こす」 = aikaan-saada / merkittäviä 「注目されるべき、重要な」 [複分] < merkittävä 受現分 < merkitä < merkki / aikaisemmin 「以前に」 / orja-kaupasta 「奴隷貿易から」 [出] < -kauppa / luopumista 「抜け出すことを、廃止することを」 [分] < luopuminen 動名 < luopua (+ [出]) / ääni-oikeutta 「選挙権を、参政権を、投票権を」 [分] < -oikeus < oikea / pidettiin 「みなされた」 受過 < pitää (+ [分] + [様]) / aikoinaan 「かつては」 [複様] + 単 3 所接 < aika / mahdottomuutena 「不可能なことだと」 [様] < mahdottomuus < mahdoton ⇔ mahdollinen / siitä [出] < se (huolimatta と結びつくために出格になっています) / levitä 「広がる」 / kaikkialle 「あらゆる場所へ」 ⇒ kaikkialla, kaikkialta

●フィンランド語理解のための訳例

大きな|問題の|かたわらで|できる|容易に|感じる|無力を、|しかし|重要である|思い出す、|
<次の> [ことを|困難に|にもかかわらず|大きな|変化も|可能である]。歴史的に|確認されると|我々は
生み出してきた|注目されるべき|社会的な|変化を|以前にも。たとえば|奴隷貿易から|抜け出すこ
とを|そして|女性たちの|参政権を|みなされた|かつては|不可能なことだと。それに|にもかかわらず|
実践は|広がった|あらゆる場所へ|世界へ。

◎意訳

大きな問題に直面すれば容易に無力感を抱きがちだが、困難にもかかわらず大きな変化も可能であることを思い出すことが重要である。歴史的に見てみれば、我々は以前にも注目すべき社会的変化を成し遂げてきているのである。たとえば、奴隷貿易を廃止することや女性の参政権などは、かつては不可能なことだと考えられていたのである。そうであるにもかかわらず、<奴隷貿易の廃止や女性の参政権などのような> 実践は世界のいたるところへ広がった。

★補足

当然のことながら「脱成長」なんて可能なのだろうかという疑問が生まれます。ただし、変化は可能だというのが「脱成長」論者たちの考えです。

【51】我々の生活状況を改善する手段は消費ではないはず

Pyrkiikö kohtuusliike hillitsemään ihmisten luonnollista taipumusta parantaa elämänsä?

Ei. Ihmisillä voi olla taipumus jatkuvasti parantaa olojaan, mutta tämän ei tarvitse ilmetä ekologisena ylikulutuksena. Ihmisen halu parantaa omaa ja muiden elämää olisi parasta valjastaa tavoin, jotka eivät ole ristiriidassa maapallon ekologisten reunaehtojen kanssa.

■ 語句・文法

hillitsemään「抑制しよう」と MA 不[入]< hillitä/taipumusta「傾向を」[分]< taipumus < taipua/elämänsä「自らの生活を、自らの人生を」[分]+ 複₃ 所接 < elämä < elää/olojaan「自らの状況を」[複分]+ 複₃ 所接 < olo < olla/ilmetä「現れる」< ilmi/ekologisena yli-kulutuksena「生態的(に影響を及ぼすような)過剰消費として」[様]< ekologien yli-kulutus/halu「欲求は、望みは」(こhalu が文の主語で、olisi が述語動詞です)/muiden「他の人々の」[複属]< muu/valjastaa「利用する」/tavoin「方法により」[複具]< tapa/risti-riidassa「矛盾して、対立して」[内]< -riita/reuna-ehtojen「前提条件の」

● フィンランド語理解のための訳例

しようとするのか|脱成長運動は|抑制しようとして|人々の|自然な|傾向を|改善しようとする|自らの生活を。

いいえ。人々には|ありうる|傾向が|継続的に|改善しようとする|自らの状況を、|しかし|これは|必要ない|現れる|生態的な|過剰消費として。[人間の|望みを|改善しようとする|自分の|そして|他の人々の|生活を]|である|最善な|利用するのが|方法により、|それらは|矛盾しない|地球の|生態的な|前提条件の|と(一緒に)。

◎ 意訳

脱成長運動とは、自らの生活を改善したいと思う人間の自然な傾向というものを抑えようとするものなのか。

そうではない。人間は自らの状況をつねに改善したいと思う傾向をもつかもしいないが、この傾向は何も生態に影響を及ぼすような過剰消費という形で現れる必要もないはずだ。自分の、そして他者の生活をよいものにしたいという人間の欲求は、地球が私たちに提示する生態的な条件と対立しないような形で活用するのが最善なことだろう。

【52】「成長」や「効率性」は時間的貧困や不平等をもたらしてきた

Kun materiaaliset perustarpeet on tyydytetty, hyvinvointi lisääntyy tutkitusti ei-materiaalisten asioiden kautta, kuten lisääntyvän vapaa-ajan, yhteisöllisyyden ja henkisen kasvun tuloksena. Sen sijaan kasvun ja tehokkuuden tavoittelu ovat johtaneet ajalliseen köyhyteen ja kasvavaan epätasa-arvoon, jotka lisäävät tyytymättömyyden tunnetta. Kohtuutaloudessa ei vastusteta pyrkimyksiä parantaa omaa elämänlaatua – se vain tehdään tasa-arvoa, oikeudenmukaisuutta ja planetaarisia rajoja kunnioittaen.

■ 語句・文法

perus-tarpeet「基本的必要性を」[複主対]< -tarve/on tyydytetty「満足させられている」受完 < tyydyttää < tyytyä/tutkitusti「研究されている通り、研究が示しているように」[副]< tutkittu 受過分 < tutkia/ei-materiaalisten「非物質的な」[複属]< -materiaalinen/lisääntyvän「増えるよう

な」[属]< lisääntyvä 能現分 < lisääntyä < lisätä/yhteisöllisyyden「共同体性の、社会性の、仲間意識の、社会関係の」[属]< yhteisöllisyys < yhteisöllinen < yhteisö < yksi/tuloksena「結果として」[様]< tulos < tulla/tehokkuuden「効率性の」[属]< tehokkuus < tehokas < teho/tavoittelu「追求」< tavoitella/ovat johtaneet「導いてきた」完 < johtaa (主語は tavoittelu だと思われませんが、単数の主語に対して述語動詞が ovat johtaneet となっているのが気にかかります。単純な誤りかもしれません。)/ajalliseen köyhyteen「時間的な貧しさへ」[入]< ajallinen köyhyys (「時間的貧しさ、時間貧困」とは、成長や効率性を追い求めることに必死になることで、逆に我々自身が追いまくられてしまい、たとえば自由な時間や有意義な活動などに費やす時間が見いだせないといった状況をさすのだらうと思います。)/kasvavaan epä-tasa-arvoon「拡大する不平等へ」[入]< kasvava epä-tasa-arvo (kasvava 能現分 < kasvaa)/tyytymättömyyden「不満足 of、不満の」[属]< tyytymättömyys < tyytymätön 否分 < tyytyä/ei vastusteta「反対しない、抵抗しない」受現否 < vastustaa/pyrkimyksiä「試みに」[複分]< pyrkimys < pyrkiä/elämän-laatua「生活の質を」[分]< -laatu/oikeuden-mukaisuutta「公正を、正義を」[分]< -mukaisuus < -mukainen/planetaarisia rajoja「惑星の限界を」[複分]< planetaarinen raja/kunnioittaen「尊重することにより」e 不[具]< kunnioittaa < kunnia

●フィンランド語理解のための訳例

〈次の〉[ときに|物質的な|基本的必要性を|満たされている]、|福祉・厚生は|増える|研究されている通り|非物質的な|事柄の|通じて、|〈次の〉[ような|増えるような|自由時間の、|共同体性の|そして|精神的な|成長の|結果として]。その|代わりに|成長の|そして|効率性の|追及は|導いてきた|時間的な|貧困へ|そして|拡大する|不平等へ、|それらは|増やす|不満足 of|感情を。脱成長経済において|反対しない|試みに|改善しようとする|自分の|生活の質を|—それを|ただ|なされる|平等を、|公正を|そして|惑星の|限界を|尊重することにより。

◎意訳

物質的な基本的必要性というものが満たされると、研究によっても示されているように〈人の〉福祉・厚生は非物質的な事柄を通じて、たとえば自由時間が増えること、社会の一員であるという意識、そして精神的成長の結果として増大するものである。それに対して成長や効率性を追い求めることは時間的な貧困や拡大する不平等へと〈我々を〉導いてきたが、それらは不満感を増大させるものである。脱成長経済においては自らの生活の質を改善しようとする試みに反対することはない—ただし、それは平等や公正、そして地球という惑星のもつ限界というものを尊重する形で行われるのである。

★補足

また繰り返しになりますが、私たちに求められているのは「幸福」を定義しなおすことだと思います。多くの「モノ」に囲まれ、さらに多くの「モノ」を手に入れるために働き、そして消費することが幸福だと勘違いしている状況から抜け出すことが重要です。

【53】決定は民主的に行われる必要がある

Olennaista on ymmärtää, että ilman suunnanmuutosta kohti ekologisesti kestävä, tasa-arvoista ja inhimillistä taloutta myös yhteiskuntamme tulevaisuus näyttää vaikealta ellei peräti epätoivoiselta. Siksi talous- ja yhteiskuntakeskustelun on otettava uusi suunta. On aloitettava tilanteesta, jossa läsnä ovat kaikki näkökulmat ja mahdollisuudet ja jossa parhaat argumentit ja lopulta demokraattinen päätöksenteko ratkaisee sen, millaisen yhteiskunnan rakentamiseen me kansalaiset jokapäiväisellä työllämme osallistumme ja millaisen perinnön jätämme tuleville sukupolville.

■ 語句・文法

olennaista「本質的な」[分]< olennainen < olla / suunnan-muutosta「方向転換」[分]< -muutos (ilman「~なしで」は分格を要求します。) / tasa-arvoista「平等な」[分]< -arvoinen < -arvo / yhteis-kuntamme「私たち社会の」[属]+ 複 1 所接 < -kunta / näyttää vaikealta「難しいように見える」(vaikealta[奪]< vaikea, näyttää のような感覚に関する動詞は奪格を要求します) / ellei「もし~でなければ、もし~でないとしても」= jollei = jos ei / peräti「まったく、かなり」 / epä-toivoiselta「絶望的な」[奪]< -toivoinen (näyttää に結びつくため奪格になっています) / -keskustelun「議論は」(この属格は次に来る on otettava「とらなければならない」の意味の上での主語に相当します。フィンランド語では「しなければならない」という表現の多くにおいて、意味の上で主語になる語は属格になります。) / on otettava「とらなければならない」(otettava 受現分 < ottaa) / uusi suunta「新しい方向を」(この語句は on otettava の目的語に相当します。フィンランド語では「しなければならない」という表現の多くにおいて、対格目的語は主格の形になります。) / on aloitettava「始めなければならない」(aloitettava 受現分 < aloittaa) / tilanteesta「状況から」[出]< tilanne / läsnä「同席して、出席して、存在して」(この läsnä ovat の主語は、おそらく次に出てくる kaikki näkökulmat ja mahdollisuudet だと思います。というのも、次にあらためて jossa という関係代名詞が出てきますので、意味のまとまりは mahdollisuudet で切れるのだらうと思います。) / ja jossa parhaat argumentit ja lopulta demokraattinen päätöksen-teko ratkaisee の部分ですが、ここであらためて jossa という関係代名詞が tilanne「状況」という語を受ける節が始まっていると理解できます。そうすると、この節内の主語は parhaat argumentit「最善の根拠」と demokraattinen päätöksen-teko「民主的な決定行為」だと思いますが、その後に出てくる述語動詞が ratkaisee と単数になっているのが気にかかります。この記事はホームページからとっていますが、たとえば私の書く日本語が「正しい日本語」からしばしば逸脱するのと同じように、とくにホームページのフィンランド語は不思議な部分が少なくありません。 / parhaat「最善の、最高の」[複主]< paras 最 < hyvä / argumentit「根拠は」[複主]< argumentti / päätöksen-teko「決定が」 / sen, [疑問詞] ~「~ということ」 / rakentamiseen「構築することへ」[入]< rakentaminen 動名 < rakentaa / joka-päiväisellä「日々の、毎日の」[接]< -päiväinen < päivä / osallistumme「我々は参加する」複 1 現 < osallistua < osallinen < osa / perinnön「遺産を」[属対]< perintö < periä / tuleville suku-polville「将来の世代へ」[複向]< tuleva suku-polvi (tuleva 能現分 < tulla)

●フィンランド語理解のための訳例

本質的な|である|理解することが、|〈次の〉[ことを|〈次〉なしで|方向転換|〈次へ〉向けて|生態的に|持続可能な、|平等な|そして|人間的な|経済〈へ〉|また|我々の社会の|将来は|見える|難しいように|もし〜でないとしても|まったく|絶望的なように]。そのため|経済〈議論は〉|そして|社会議論は|とらなければならない|新しい|方向を。始めなければならない|状況から、|そこでは|存在して|いる|すべての|視点が|そして|可能性が|そして|そこには|最善の|根拠が|そして|最終的に|民主的な|決定が|解決する|〈次の〉[ことを、|どのような|社会の|構築することへ|我々|市民は|日々の|作業によって|参加するのか|そして|どのような|遺産を|我々は残すのか|将来の|世代へ。

◎意識

生態的に持続可能で平等な、そして人間的な経済へ向けての方向転換なしでは我々の社会の将来は、完全に絶望的ではないにしても、困難なものになるだろうということを理解することが本質的に重要である。そのために経済や社会に関する議論は新たな方向性をとるべきである。〈そして〉我々市民が日々の行動によりどのような社会の構築に貢献していくのか、あるいは、どのような遺産を将来世代に引き継いでいくのかということを決定する際に、あらゆる視点や可能性を排除することなく、最善の根拠にもとづき、しかも民主的に決定がなされるような状況から出発しなければならない。

★補足

当たり前のことのようにですが、「民主的」という考え方は「脱成長」という主張には欠かせないものです（「民主的」をどう定義するかは置いておくとして）。日本のような国は、もちろん明確に非民主的だと思われる国々と比較すれば「民主的」であるとはいえるかもしれませんが、しかし、そんな国において、なぜ少なくない人々が貧困の中で暮らしたり、幸福などとは無縁の生活を強いられているのでしょうか。もし、そのような人々も「貧困から抜け出し、幸福を感じたい」と思っているのであれば、現実には彼らの声は実現していないわけですから、はたして「民主的」な社会が実現しているといえるのでしょうか。

それでは、次は「北カレリア妥当性〈脱成長〉運動」という組織が掲げている要求を見ていきます。

【54】「北カレリア妥当性(脱成長)運動」が掲げる十の要求

Kohtuus vaarassa -liikkeen kymmenen kohtuullista vaatimusta:

1. Elämäntavan syvällinen muutos on välttämätön. Pelkkä teknologia ei pelasta.
2. Tarvitaan yhteisiä sitovia rajoituksia kulutukseen. Tulevien sukupolvien pöydästä syöminen on lopetettava.
3. Energian käytön vähentäminen on ainoa mahdollisuus vastata riittävän nopeasti ilmastokriisin haasteeseen. Kulutusta on supistettava oikeudenmukaisesti ja hallitusti.
4. Ydinenergian ja uraani-kaivosten tilalle kotimainen, hajautettu ja uusiutuva energiantuotanto.
5. Mainontaa on rajoitettava. Se luo keinotekoisia tarpeita.
6. Paikallisen tiedon tuhoaminen on lopetettava. Kokemusperäistä viisautta tarvitaan ekologisesti kriisiytyvässä maailmassa.
7. Luonnonvarojen kuluttamista on verotettava progressiivisesti.
8. Asevarustelu on lopetettava. Se vie ihmiskunnalta voimavarat ilmastokriisin torjunnasta.
9. Rajallisella maapallolla on luovuttava tavoittelemasta jatkuvaa kasvua.
10. Kohtuus arvoonsa. Se on vapautta kulutusriippuvuuksista.

■ 語句・文法

Kohtuus vaarassa -liikkeen「妥当性が危機にある運動の」[属]< -liike (この運動は、2009 年に Pohjois-Karjala「北カレリア」地方の Koli で開催された「妥当性が危機にある—持続不可能な発展から妥当性の文化へ」というセミナーを出発点とする Pohjois-Karjalan kohtuusliike「北カレリア妥当性(脱成長)運動」のことをさすのだと思います。ここで挙げられている 10 項目が、その運動が掲げている要求です。) / kohtuus の日本語訳については資料IV-8でも触れました。「妥当性、ほどほどであること、公正さ」と訳したり、場合によっては「脱成長(経済)」と訳すことになります。 / syvällinen「深い、根本的な」< syvä / välttämätön「不可欠な」否分 < välttää / sitovia「縛るような、拘束力のあるような」[複分]< sitova 能現分 < sitoa / rajoituksia「制限を」[複分]< rajoitus < rajoittaa < raja / tulevien「来るような、将来の」[複属]< tuleva 能現分 < tulla / on lopetettava「やめなければならない」(lopetettava 受現分 < lopettaa) / riittävän「十分に」[属]=[複]< riittävä 能現分 < riittää / haasteeseen「課題へ、挑戦へ」[入]< haaste < haastaa / on supistettava「縮小しなければならない」(supistettava 受現分 < supistaa) / hallitusti「管理された方法で、制御された形で」[副]< hallittu 受過分 < hallita / ydin-energia「核エネルギーの、原子力エネルギーの」[属]< -energia / uraani-kaivosten「ウラン鉱山の、ウラン採掘の」[複属]< -kaivos < kaivaa / tilalle「代わりに」[向]< tila / hajautettu「分散されたような」受過分 < hajauttaa < haja- / uusiutuva「再生するような」能現分 < uusiutua < uusi / mainontaa「広告を」[分]< mainonta ⇒ mainos / on rajoitettava「制限しなければならない」(rajoitettava 受現分 < rajoittaa) / keino-tekaisia「人工的な、人為的な」[複分]< -tekoinen / tuhoaminen「破壊すること」

動名 < tuhota < tuho / kokemus-peräistä 「経験にもとづくような、経験に発するような」 [分] < -peräinen < perä / viisautta 「知恵を、知見を」 [分] < viisaus < viisas / kriisiytyvässä 「危機に陥るような」 [内] < kriisiytyvä 能現分 < kriisiytyä < kriisi / on verotettava 「課税しなければならない」 (verotettava 受現分 < verottaa < vero) / progressiivisesti 「累進的に」 [副] < progressiivinen / ase-varustelu 「軍備化、武装化」 / voima-varat 「資源を、資力を、リソースを」 [複主対] < -vara / torjunnasta 「阻止から」 [出] < torjunta < torjua / on luovuttava 「あきらめなければならない」 (luovuttava 受現分 < luopua + [出] ~MA 不 [出]) / tavoittelemasta 「追求することから」 MA 不 [出] < tavoitella / kohtuus arvoonsa 「妥当性を (自らの) 価値へ、妥当性を (本来の) 価値へ」 / vapautta 「自由、解放」 [分] < vapaus < vapaa / kulutus-riippuvuuksista 「消費依存からの」 [複出] < -riippuvuus < riippua < riippua

●フィンランド語理解のための訳例

妥当性が危機にある運動の | 十の | 妥当な | 要求:

1. 生活方法の | 根本的な | 変化が | 不可欠である。ただの | 技術は | 救わない。
2. 必要とされる | 共通の | 拘束力のあるような | 制限を | 消費へ。来るべき | 世代の | テーブルから | 食べることを | やめなければならない。
3. エネルギーの | 使用の | 減らすことは | である | 唯一の | 可能性 | 応える | 十分に | 速く | 気候危機の | 課題へ。消費を | 縮小しなければならない | 公正に | そして | 管理されたやり方で。
4. 核エネルギーの | そして | ウラン鉱山の | 代わりに | 国産の、 | 分散されたような | そして | 再生するよ
うな | エネルギー生産。
5. 広告を | 制限しなければならない。それは | 作り出す | 人工的な | 必要性を。
6. 地域の | 知識の | 破壊することを | やめなければならない。経験にもとづくような | 知恵を | 必要とさ
れる | 生態的に | 危機に陥るような | 世界において。
7. 天然資源の | 消費することを | 課税しなければならない | 累進的に。
8. 軍備化を | やめなければならない。それは | もっていく | 人類から | 資源を | 気候危機の | 阻止から。
9. 限定的な | 地球において | あきらめなければならない | 追及することを | 継続的な | 成長を。
10. 妥当性を | (その自らの) 価値へ。それは | である | 自由 | 成長依存から。

◎意識

「妥当性が危ない」運動が掲げる妥当性を求める十項目の要求:

1. 生活形態を根本的に変化させることが不可欠である。ただ技術を活用するだけでは解決できな
い。
2. 消費に対して拘束力をもつ共通の制限を設けることが必要である。将来世代のテーブルから食
い漁るようなことはやめなければならない。
3. 気候変動の危機に対して十分なスピードで応える唯一の手段は、エネルギーの使用を減らすこと
である。そして消費を公正な、そして管理された形で縮小しなければならない。
4. 原子力エネルギーやウラン採掘に代わって、国産・分散型の再生エネルギーの生産くをめぐすべ
きである。

5. 広告を制限しなければならない。〈なぜなら〉それは人為的な必要性というものを生み出すものであるから。
6. 地域社会の知識の破壊を止めなければならない。生態的な危機に陥ろうとする世界においては、〈それぞれの地域の人々がもつ〉経験にもとづく知見が必要とされる。
7. 天然資源の消費に対しては累進課税を実施しなければならない。
8. 軍備増強はやめなければならない。〈なぜなら〉それは気候変動の危機を阻止するための資源を人類から奪うことになるからである。
9. 限られた地球においては絶え間ない〈経済〉成長を追い求めることはあきらめなければならない。
10. 「ほどほどである」ということの本来の価値へ立ち戻るべきである。それは成長依存症から解放されることである。

★補足

この10項目の中には、たとえば6のように資料Ⅲ-4で扱った「文化的持続可能性」の視点も、当然のことながら含まれています。あるいは、原子力発電や軍備増強など非常に重要で大きな課題にも取り組むことが「脱成長」という考え方にとって避けては通れないものなのだろうと思います。

【55】短時間で「成長」から離脱することもまた夢想的

Ilmastonmuutoksen ja ekologisten kriisien ratkaiseminen kulutustasoon kajoamatta on oma utopistinen visionsa, sillä se perustuu optimistiseen talouskasvun ja ympäristöongelmien irtikytkennän ajatukseen. Kasvusta irtautuminen lyhyellä aikavälillä on utopistista, sillä nykyinen järjestelmämme perustuu talouskasvuun ja romahtaisi ilman sitä.

■ 語句・文法

ilmaston-muutoksen「気候変動の」[属]< -muutos < muuttaa / ratkaiseminen「解決することは」動名 < ratkaista / kulutus-tasoon「消費水準へ、消費レベルへ」[入]< -taso / kajoamatta「触れずに」MA 不[欠]< kajota / oma「独自の」 / utopistinen「ユートピア的な、夢想的な、非現実的な」 / visionsa「(自らの)展望、ビジョン」[主]+ 単3 所接 < visio / optimistiseen「楽観(主義)的な」[入]< optimistinen / ajatukseen「考えへ、考え方へ」[入]< ajatus / irtautuminen「離脱すること、切り離されること」動名 < irtautua / lyhyellä aika-välillä「短時間で」[接]< lyhyt aika-väli / järjestelmämme「我々の体制は」[主]+ 複1 所接 / romahtaisi「崩壊するだろう、破綻するだろう」[条]単3 現 < romahtaa

● フィンランド語理解のための訳例

気候変動の|そして|生態的な|危機の|解決することは|[消費水準に|触れることなく]|である|独自の|夢想的な|(自らの)展望、|というのも|それは|もとづいている|楽観(主義)的な|経済成長の|そして|環境問題の|デカップリングの|考えに。成長から|離脱することは|[短い|期間で]|である|夢想的な、|というのも|現在の|我々の体制は|もとづく|経済成長へ|そして|崩壊するだろう|

それなしでは。

◎意訳

消費水準を問題とすることなく気候変動や環境危機を解決するということは独自の夢想的な展望にすぎない。なぜなら、それは経済成長と環境問題とを切り離すことができるという楽観的な考え方にもとづくものだからである。〈しかし〉短期間で成長から離脱することもまた夢想的である。というのも、現在の我々の体制は経済成長にもとづくものとなっており、それなしでは破綻してしまうであろうからである。

【56】「成長」と「脱成長」、どちらが非現実的なのか？

Kohtuutalouden näkökulmasta nykypolitiikka perustuu epärealistisille olettamuksille siitä, että irtikytkennässä onnistuttaisiin.

■語句・文法

epä-realistisille「非現実的な」[複向]<-realistinen/olettamuksille「仮定へ、推測へ」[複向]<olettaus < olettaa < olla/ siitä, että ~「～だということについて」/ irtikytkennässä「切断において、分離において、デカップリングにおいて」[内]<-kytkentä < kytkeä (すでに出ましたが「デカップリング」とは技術革新により経済成長と環境問題とを切り離すことができる、つまり経済成長を継続しながら環境保護は可能だとする考え方です) / onnistuttaisiin「成功するだろう」[条] 受現 < onnistua

●フィンランド語理解のための訳例

脱成長経済の|視点から|現在の政治は|もとづく|非現実的な|仮定へ|[ついて|<次>ことに|デカップリングにおいて|成功するだろう]。

◎意訳

脱成長経済の観点からすれば、現在の政治は経済成長と環境問題とは切り離すことができるという、いわゆる「デカップリング」が成功するだろうという非現実的な仮定にもとづくものとなっている。

★補足

経済成長を批判すると、しばしば「非現実的だ」という反論が寄せられます。ただし、本当に「非現実的」なのはどちらなのかよく考えてみる必要があります。目の前で起きている気候変動のことを真剣に考え、地球という惑星が破綻しかけているという結論に立てば、経済成長が必然であると考えるのは現実的などではなく、むしろ「考えることの放棄」、あるいは「集団的な現実逃避」なのではないかと思います。その意味では「脱成長」へ向けて動き出すべきだという主張の方が、まちがいに「現実的」だろうと思います。

さて、次の【57】は2022年7月28日付の新聞記事の見出しです。

【57】「声を大にしていなければならない」

Pitäisi uskaltaa sanoa ääneen: tästä ei selvitä ilman kulutuksen vähentämistä

■ 語句・文法

これは新聞の記事の見出しで、次の【58】へ続きます／tästä「ここから」[出] < tämä(ここでの「これ」とは「我々や環境が置かれている危機的な状況」のことをさしているのだと思います) / ei selvitä「乗り越えられない」受現否 < selvitä(+ [出])

● フィンランド語理解のための訳例

しなければならないだろう | 思い切ってる | いう | 声に出して: | これから | 乗り越えられない | <次>
[なして | 消費の | 少なくすること]

◎ 意訳

あえて声を大にしていなければならないはずだ: 消費を減らすことなくこれを乗り切ることはできないと

【58】消費を減らすことがもっとも包括的な方法

Kulutuksen vähentäminen on kokonaisvaltaisin tapa torjua ympäristökriisejä, kirjoittaa HS:n luontokadon kirjeenvaihtaja Petja Pelli.

■ 語句・文法

kokonais-valtaisin「もっとも包括的な、もっとも全体的な」最 < -valtainen / torjua「阻止する」 / HS:n = Helsingin Sanomien「Helsingin Sanomat(ヘルシンキ新聞)の」 / luonto-kadon「生物多様性喪失の」[属] < -kato / kirjeen-vaihtaja「特派員」

● フィンランド語理解のための訳例

消費の | 減らすことは | である | もっとも包括的な | 方法 | 阻止するための | 環境危機を、 | 書く | Helsingin Sanomat 紙の | 生物多様性喪失の | 特派員 | Petja Pelli が。

◎ 意訳

「消費を減らすことこそ環境危機を阻止するもっとも包括的な方法である」と生物多様性喪失に取り組む Helsingin Sanomat 紙の特派員 Petja Pelli は書いている。

【59】答えはただ一つ、ということではない

Kysymykseen ”mitä on tehtävä?” ei ole olemassa yhtä ainoaa vastausta, eikä vastaus voi kummuta yhdestä ainoasta poliittisesta ajatteluperinteestä. Jotta voisimme etsiä ratkaisuja ja uusia malleja tulevaisuuden yhteiskuntien ekologisesti ja sosiaalisesti kestäväen kehityksen toteuttamiseksi, tarvitsemme joukoittain erilaisia ehdotuksia, teorioita, uusia käytännön malleja ja ajatuksia.

■ 語句・文法

on tehtävä「しなければならない」(tehtävä 受現分 < tehdä) / yhtä「一つの」[分] < yksi / kummuta「湧き出る」 / yhdestä「一つの」[出] < yksi / ajattelu-perinteestä「思想の伝統から」[出] < -perinne < periä / jotta「～ために」 / voisimme「我々はあるだろう」[条] 複 1 現 < voida / toteuttamiseksi「実現するために」[変] < toteuttaa < tosi / joukoittain「集団で、群れて、徒党を組んで、たくさんで」< joukko

● フィンランド語理解のための訳例

問題へ | 「何を | しなければならないのか」 | 存在しない | 一つの | 唯一の | 応えは、 | そして～ない | 答えは | できる | 湧き出る | 一つの | 唯一の | 政治的な | 思想の伝統から。 < 次の > [ために | 我々はある | だろう | さがす | 解決策を | そして | 新しい | モデルを | 将来の | 社会の | 生態的に | そして | 社会的に | 持続可能な | 発展の | 実現するために]、 | 我々は必要とする | 集団で | さまざまな | 提案を、 | 理論を、 | 新しい | 実践の | モデルを | そして | 考え方を。

◎ 意訳

「何をしなければならないのか」という問いに対して、唯一の答えというものは存在しないし、答えは唯一の伝統的な政治思想から湧き出るものでもありえない。将来の社会が生態的・社会的に持続可能な発展を実現するよう我々が解決策や新しいモデルをさがすことができるためには、さまざまな提案、理論、新たな実践のモデルや考え方が数多く必要とされる。

【60】「脱成長」は皆が力を合わせて構築するもの

Kenelläkään ei ole lopullisia ratkaisuja tai valmiita vastauksia jokaiseen kysymykseen – eikä pidäkään olla. Yhdessä voimme kuitenkin vaikuttaa muutoksen suuntaan. Jokainen voi löytää itselleen sopivan tavan toimia. Talous kuuluu kaikille. On kuitenkin varmistettava, että kohtuutalouden edistäminen kytkeytyy laajempiin poliittisiin kysymyksiin ja yhteiskunnallisiin ratkaisuihin. Vain näin toiminnastamme tulee vaikuttavaa. Kohtuutalous ja kohtuuden yhteiskunta rakennetaan yhdessä.

■ 語句・文法

kenellä-kään「誰にも(～ない)」[接] < kuka-an / lopullisia「最終的な」[複分] < lopullinen < loppu / valmiita「できあがっているような、準備のできているような」[複分] < valmis / eikä pidä-kään olla「そして、あってはならないのである」(-kin、そして否定で使われる-kaan/-kään は主張などを強調す

る働きをします) / suuntaan「方向へ、方向性へ」[入] < suunta / itselleen「自分自身へ」[向]+
単 3 所接 < itse / kuulua「属する、~のものである」 / on varmistettava「確実なものにしなければ
ならない、確認しなければならない」(varmistettava 受現分 < varmistaa < varma) / edistäminen
「促進することは」動名 < edistää < esi- / kytkeytyä「つながる、結びつく、関係する」 < kytkeä /
laajempiin「より広い」[複入] < laajempi 比 < laaja / näin「このように、こうして」[複具] < tämä /
toiminnastamme tulee vaikuttavaa「我々の行動は影響力のあるものになる(我々の行動から影響
力のあるものが来る)」(toiminnastamme [出]+ 複 1 所接 < toiminta, vaikuttavaa [分] <
vaikuttava 能現分 < vaikuttaa) / rakennetaan「構築される」受現 < rakentaa

●フィンランド語理解のための訳例

誰にも|ない|最終的な|解決策は|あるいは|できあがっているような|答えは|すべての|問題へ|
—そして、あってはならないのである。一緒に|我々|はできる|しかしながら|影響を与える|変化の|方
向性へ。それぞれの人間は|できる|見つける|自分自身へ|適切な|方法を|行動するための。経済
は|属する|すべての人へ。確認しなければならない|しかしながら、|〈次の〉[ことを|脱成長経済の|
促進することは|つながる|より広い|政治的な|諸問題へ|そして|社会的な|解決策へ。ただ|このよ
うにして|我々の行動は|なる|影響力のあるものに。脱成長経済を|そして|脱成長の|社会を|構築
される|一緒に。

◎意識

誰も最終的な解決策を持ち合わせてはいないし、すべての問題に対してできあがった答えがある
わけでもない—そして、そのような答えはあってはならないのである。しかし、我々是一緒になって変
化の方向性に影響を与えることはできる。〈そして〉それぞれが自分自身に合った行動の仕方を見
つけることもできるだろう。〈なぜなら〉経済とはすべての人にかかわる問題である〈からである〉。そ
れでも、脱成長経済を推進することはより広範な政治的課題や社会的解決策と結びつくものだとい
うことは確認しておくべきだろう。こうすることによってのみ、我々の行動は影響力をもつものとなるの
である。脱成長経済や脱成長社会というものは、〈皆が〉一緒になって構築するものなのである。

★補足

テーマIVでは「新しい経済の形」という題名でいくつかの取り組みを見てきましたが、それらに共
通していたことの一つは「皆で協力する」ということだったと思います。そのような取り組みにより求
められる社会というのは、皆が協力した結果として、皆が分け前にあずかり、そして皆が満足感を味
わえるような社会だろうと思います。

【61】「消費者」としてではなく「人」として

Ihmisille on annettava mahdollisuus kukoistaa ihmisinä, ei pelkästään kuluttajina⁹.

◇原注(文中で言及されている参考文献など)

⁹ Jackson (2009)

Jackson, T. (2009): Prosperity without Growth? The transition to a sustainable economy. UK, Sustainable Development Commission.

■ 語句・文法

on annettava 「与えなければならない」(annettava 受現分 < antaa) / kukoistaa 「花開く、繁栄する」 < kukka

● フィンランド語理解のための訳例

人々へ | 与えなければならない | 可能性を | 花開くための | 人間として、 | ではない | ただ単に | 消費者として。

◎ 意訳

ただ単に消費者としてではなく、人が人として花開く可能性を与えられなければならない。

★ 補足

【49】や【59】にもあったように、「脱成長」は何か明確な一つの答えを提示するものではなく、その実践は多様な形をとるものとなるはずです。そうであるからこそ「脱成長」という考え方を理解するのは難しいのだらうと思います。たとえば、脱成長に関する次の訳書を見ると、「脱成長」を理解する難しさを痛感します。

📖 引用文献

セルジュ・ラトゥーシュ / ディディエ・アルパジェス (佐藤直樹 / 佐藤薫 訳). 2014. 『脱成長 (ダウンシフトのとき—人間らしい時間をとりもどすために)』. 未来社.

上記の文献は、この資料にも登場したセルジュ・ラトゥーシュの共著を日本語に翻訳したものです。その訳者が日本を訪れたラトゥーシュについて書いている部分を次に挙げておきます。

ただ、素朴な疑問もあります。ラトゥーシュ教授は脱成長を実践しているのでしょうか。日本滞在中、全国を忙しく駆け巡り、何度も各地で講演を行う姿を見ると、なんだか私たちとあまり変わらないように思えます。講演では、パソコンでプレゼンをしていて、省エネでもありません。脱成長を唱えることと実践することとのギャップを感じさせられました。(ラトゥーシュ / アルパジェス 2014: 131)

私はフランス語ができませんので、この訳書について正確な評価をすることはできません。ただ、さまざまな工夫もなされており、比較的読みやすいと思っています。ただし、上で引用した「訳者あとがき」を読んだときには、正直なところ愕然としてしまいました。「全国を忙しく駆け巡り」「パソコンでプレゼンをして」講演することが「省エネ」ではなく、脱成長を「唱える」だけで実践できていないじゃないかといっているのだと思います。脱成長にかかわる書籍の翻訳を担った人間でさせ、このような表層的な理解しかできていないことに驚くとともに、脱成長という考え方の難しさを痛感しました。

脱成長を唱える人々は、それが喫緊の課題だと感じているはずで、そうであれば、講演の機会があれば精力的に駆け回るのは当然のことです。また、パソコンを使わないなどということと脱成長とは何の関係もありません。資料の中にも出てきましたが、脱成長は決して技術を否定するものではありません(ただし、どのような技術を、どのように使うのかということは、おそらく重要な問題だと思います)。つまり、脱成長とは世間から隔離して隠遁生活をしたり、人里離れた場所で自給自足生活をしようとするということでもありません。ただ、「訳者あとがき」を読み進むと、訳者の大きな誤解が明確になります。

「訳者あとがき」の 144 ページ以降では「ダウンシフト」と「脱成長」を取り上げ、「本書では、あえて脱成長とダウンシフトを読み替えて理解することを提案しました」(145 ページ)と述べています。おそらく、ここに最大の問題があるのだと思います。個人の生活のスピードを緩めるという「ダウンシフト」という視点から見たときに、ラトウーシュが忙しく駆け回る姿を見て「脱成長ではないじゃないか」と短絡的に考えてしまうのは、自分の頭の中で「ダウンシフト」と「脱成長」が完全に同じものになってしまうからだと思います。さらに付け加えれば、「ダウンシフト」という考え方でさえ、自らが価値あると信じることに時間や労力を費やすことを否定するわけではありません。ですからラトウーシュが精力的に講演をして駆け回ることは「脱成長」はもちろんですが、「ダウンシフト」にさえ反するものではないと考えるべきだと思います。

さて、この訳者のような過ちを犯さないためには、やはり私たち一人一人が勉強していくしかないのだと思います。そのために、私が読んだ範囲で参考になる文献を挙げておきます(これまでの資料の中で取り上げた文献は、原則として省略します)。

📖 推薦図書

- ウォーラステイン、イマニュエル ほか(若森章孝/若森文子 訳). 2019. 『資本主義に未来はあるか—歴史社会学からのアプローチ』. 唯学書房.
- ガブリエル、マルクス ほか. 2021. 『資本主義と危機—世界の知識人からの警告』. 岩波書店.
- カリス、ヨルゴスほか(上原裕美子/保科京子 訳). 2021. 『なぜ、脱成長なのか—分断・格差・気候変動を乗り越える』NHK 出版.
- カリス、ヨルゴス(小林舞ほか 監訳/小林正佳 訳/斎藤幸平+FEAST 解説). 2022. 『LIMITS—脱成長から生まれる自由』. 大月書店.
- クライン、ナオミ(幾島幸子/荒井雅子 訳). 2017. 『これがすべてを変える 上—資本主義 vs. 気候変動』. 岩波書店.
- クライン、ナオミ(幾島幸子/荒井雅子 訳). 2017. 『これがすべてを変える 下—資本主義 vs. 気候変動』. 岩波書店.
- シュトレック、ヴォルフガング(鈴木直 訳). 2016. 『時間かせぎの資本主義—いつまで危機を先送りできるか』. みすず書房.
- シュトレック、ヴォルフガング(村澤真保呂/信友建志 訳). 2017. 『資本主義はどう終わるのか』. 河出書房新社.
- 中野佳裕(編訳)/ラヴィル、ジャン＝ルイ(編)/コラッジオ、ホセ＝ルイス(編). 2016. 『21 世紀の豊かさ』. コモンズ.

- ヌスバウム、マーサ・C(小沢自然／小野正嗣 訳). 2013. 『経済成長がすべてか?—デモクラシーが人文学を必要とする理由』. 岩波書店.
- ハーヴェイ、デヴィッド(大屋定晴ほか 訳). 2017. 『資本主義の終焉—資本の17の矛盾とグローバル経済の未来』. 作品社.
- バルファキス、ヤニス(江口泰子 訳). 2021. 『クソったれ資本主義が倒れたあとの、もう一つの世界』. 講談社.
- ヒッケル、ジェイソン(野中香方子 訳). 2023. 『資本主義の次に来る世界』. 東洋経済新報社.
- 丸山俊一／NHK「欲望の資本主義」制作班. 2022. 『脱成長と欲望の資本主義』. 東洋系アイ新報社.
- メイソン、ポール(佐々とも 訳). 2017. 『ポストキャピタリズム—資本主義以後の世界』. 東洋経済新報社.
- ラトウーシュ、セルジュ(中野佳裕 訳). 2010. 『経済成長なき社会発展は可能か?—〈脱成長〉と〈ポスト開発〉の経済学』. 作品社.
- ラトウーシュ、セルジュ(中野佳裕 訳). 2020. 『脱成長』. 白水社.

さて、現時点では、この資料でテーマⅣは終わりにするつもりです。ただし、テーマⅢやⅣで取り上げた内容を受けて、「人文系の学問とはどのような意味をもつものなのか」、あるいは「北欧デザインとは何なのか」といった問題も扱うつもりでいます。これらについては、新しいテーマⅤで取り上げていこうと思っています。

出典

【1】【22】:

”Tietoa kohtuusliikkeestä”. kohtuusliike.
<<https://kohtuusliike.fi/tietoa-kohtuusliikkeesta/>>
[2024年3月29日最終閲覧]

【4】【5】【14】【17】【20】【51】【52】【55】:

”Usein kysyttyä”. kohtuusliike.
<<https://kohtuusliike.fi/tietoa-kohtuusliikkeesta/usein-kysyttya/>>
[2024年3月29日最終閲覧]

【2】【3】【6】【7】【15】【16】【18】【19】【21】【23】【24】【25】【26】【27】【28】【29】【30】
【31】【33】【34】【41】【42】【43】【44】【50】【54】【56】【60】【61】:

Latva-Pukkila. 2015. Kohtuutalouden ratkaisut. Suomen luonnonsuojeluliitto.
<https://www.sll.fi/app/uploads/2018/10/Kohtuutalous_webversio.pdf>
[2024年3月29日最終閲覧]

【2】14 ページ、【3】14-15 ページ、【6】【7】19 ページ、【15】【16】16 ページ、【18】10 ページ
【19】16 ページ、【21】34 ページ、【23】【24】【25】【26】28 ページ
【27】【28】【29】27 ページ、【30】【31】【33】【34】25 ページ、【41】【42】31 ページ
【43】【44】30 ページ、【50】36 ページ、【54】37 ページ、【56】18 ページ、【60】36 ページ
【61】6 ページ

【8】:

Andersson, Jan Otto. 2010. ””Degrowth” – hallittu talouslasku”. *Talous & yhteiskunta*. 2010/4.
Palkansaajien tutkimuslaitos. 42-49.
<<https://labore.fi/wp-content/uploads/2020/02/ty42010.pdf>>
[2024年3月29日最終閲覧]

【8】46 ページ

【9】【10】【11】【12】【13】【47】【57】【58】:

Pelli, Petja. 2022. ”Pitäisi uskaltaa sanoa ääneen: tästä ei selvitä ilman kulutuksen vähentämistä”
Helsingin sanomat. 28.7.2022.

<<https://www.hs.fi/ulkomaat/art-2000008971325.html>>

[2024年3月29日最終閲覧]

【32】【35】【36】【37】【38】【39】【53】【59】:

Perkiö, Johanna ja Jouko Kajanoja. 2015. ”Perustulo ja uusi työllisyyspolitiikka”. Mikko ja Tiina
Silvasti (toim.). *Talouden uudet muodot*. Into. 268-285.

【32】271 ページ、【35】269 ページ、【36】269-270 ページ、【37】276 ページ、【38】276 ページ
【39】282 ページ、【53】297 ページ、【59】293 ページ

【45】【46】:

Järvensuu, Paavo. 2015. ”Degrowth”. Jakonen, Mikko ja Tiina Silvasti (toim.). *Talouden uudet
muodot*. Into. 251-267.

【45】【46】265 ページ

【40】:

Toivanen, Tero ja Juhana Venäläinen. 2015. ”Yhteisvaurauden uusi aika”. Mikko ja Tiina Silvasti
(toim.). *Talouden uudet muodot*. Into. 24-48.

【40】43 ページ

【48】:

”Taloukasvun kriitikko kaipaa hallittua laskutaloutta”. 2011. yle.

<<https://yle.fi/a/3-5327035>>

[2024年3月29日最終閲覧]

【49】:

”Mikä degrowth?” *Degrowth Finland*.

<<https://www.degrowthfinland.fi/mika-degrowth/>>

[2024年3月29日最終閲覧]